

令和 7 年度 さいたま市民意識調査

中 間 報 告 書

令和 7 年 8 月

さいたま市市長公室秘書広報部広聴課

目 次

I 調査概要

1	調査の目的	1
2	調査の項目	1
3	調査の設計	1
4	回収結果	1
5	調査実施機関	1
6	この中間報告書の見方	2

II 在住者意識調査 3

1	調査結果の要約	4
2	回答者の属性	5
3	調査の結果	7
	（1）地域での生活	7
	（2）さいたま市のイメージ	14
	（3）市政との関わり	17
	（4）市政への満足度・重視度	21
	（5）防犯対策	23
	（6）SDGs	25
	（7）今の地域を選んだ理由	27

III 在勤者意識調査 31

1	調査結果の要約	32
2	回答者の属性	33
3	調査の結果	35
	（1）さいたま市のイメージ	35
	（2）市内での活動	40

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、広聴事業の一環として、施策に対する市民の意向等を把握し、今後の市政運営の参考とすることを目的に行った。

2 調査の項目

(1) 在住者意識調査

- ① 地域での生活 ④ 市政への満足度・重視度 ⑦ 今の地域を選んだ理由
- ② さいたま市のイメージ ⑤ 防犯対策
- ③ 市政との関わり ⑥ S D G s

(2) 在勤者意識調査

- ① さいたま市のイメージ ② 市内での活動

3 調査の設計

(1) 在住者意識調査

- ① 調査地域：さいたま市全域
- ② 調査対象：さいたま市在住の満18歳以上の男女
- ③ 調査対象数：5,000人
- ④ 抽出法：住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出
- ⑤ 調査方法：郵送配布・郵送又はWEB回収
- ⑥ 調査期間：令和7年6月2日（月）～令和7年6月18日（水）

(2) 在勤者意識調査

- ① 調査地域：さいたま市全域の事業所
- ② 調査対象：さいたま市外からさいたま市内の事業所に通勤する満18歳以上の男女
- ③ 調査対象数：2,000人
- ④ 抽出法：市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
- ⑤ 調査方法：事業所へ郵送配布・郵送又はWEB回収
- ⑥ 調査期間：令和7年6月2日（月）～令和7年6月18日（水）

4 回収結果

(1) 在住者意識調査	有効回収数	2,240	有効回収率	44.8%
-------------	-------	-------	-------	-------

(2) 在勤者意識調査	有効回収数	629	有効回収率	31.5%
-------------	-------	-----	-------	-------

5 調査実施機関 株式会社 物流科学研究所

6 この中間報告書の見方

- (1) 図中に示した「n」とは、各設問の回答者数を示す。
- (2) 回答比率は、nを基数とした百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出した。
そのため、百分率の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 複数回答の質問では、百分率の合計は100.0%を超える。
- (4) 本結果は「さいたま市民意識調査」の調査結果の一部を簡潔に整理し、概要を示した。
詳細な分析や考察などは後日(令和7年12月予定)刊行する報告書に掲載する。
- (5) 作図の便宜上、一部の文字数が多い項目名や選択肢で、図中の表記においてかっこ内の文字を割愛したことがある。
- (6) 各調査の分析は、抽出調査で生じる数パーセントの誤差を考慮して記述した。

Ⅱ 在住者意識調査

1 調査結果の要約

(1) 住みやすい人は8割半ば、住み続けたい人は9割近く

今の地域が住みやすいと思う人（「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計）（86.1%）は8割半ば、今の地域に住み続けたい人（「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」の合計）（86.9%）は9割近くであった。（参照：報告書7～8ページ・問2、問3）

(2) 地域の満足度は20項目中5項目で7割台

地域の満足度（「満足」と「やや満足」の合計）は、「電車の便」が76.0%で最も高く、「ふだんの買い物の利便性」、「周りの静けさ・清潔さ」（ともに75.5%）、「自然災害による被害の少なさ」（75.4%）、「緑・水辺・自然の豊かさ」（70.0%）が続いた。（参照：報告書12ページ・問6（1））

(3) 「浦和のうなぎ」、「さいたまマラソン」、「岩槻の人形」の知名度が7割半ば

さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどの知名度は「浦和のうなぎ」が75.8%で最も高く、「さいたまマラソン」（75.6%）、「岩槻の人形」（74.8%）が続いた。

（参照：報告書16ページ・問8）

(4) 特に知りたい情報は「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が4割

さいたま市役所からの情報で、特に知りたいと思う情報では、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が40.4%で最も高く、「窓口での手続き方法や持ち物」（38.3%）、「ごみの出し方やリサイクルの情報」、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」（ともに37.8%）が続いた。

（参照：報告書17ページ・問9）

(5) 情報の入手方法として充実すべき媒体は「市報さいたま」、「市や区のホームページ」が多い

市の情報の入手方法として充実すべき媒体は、「市報さいたま」が51.3%で最も高く、「市や区のホームページ」（38.4%）、「市のX（旧 Twitter）・Facebook・LINE・Instagram」（23.6%）が続いた。

（参照：報告書18ページ・問10）

(6) 今後力を入れて取り組んでほしい事業は「高齢者福祉の充実」が4割超え

事業分野別のニーズは、「高齢者福祉の充実」が42.7%で最も高く、「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」（42.3%）、「交通事故防止／防犯対策の推進」（41.7%）が続いた。

（参照：報告書22ページ・問14）

(7) 「防犯対策」で特に重視すべきことは「パトロール、見回りの強化」が5割超え

「防犯対策」で特に重視すべきことは、「パトロール、見回りの強化」が51.1%で最も高く、「地域における防犯力の強化」（48.7%）、「防犯に配慮した道路・公園等の整備」（46.2%）が続いた。

（参照：報告書23ページ・問15）

(8) 「特殊詐欺防止」に関する情報を入手しやすいと思う媒体は「市や区のパンフレット・ちらし」が5割半ば

「特殊詐欺防止」に関する情報を入手しやすいと思う媒体は、「市や区のパンフレット・ちらし」が54.2%で最も高く、「自治会の回覧板・掲示板」（43.3%）、「テレビ番組」（32.7%）が続いた。

（参照：報告書24ページ・問16）

2 回答者の属性

性別、年代、居住区については、さいたま市の人口（令和7年5月1日現在の18歳以上人口）と対比を行った。

（1）性別

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
男 性	944	42.1%	49.2%
女 性	1,232	55.0	50.8
選べない・答えたくない	40	1.8	
無回答	24	1.1	
全 体	2,240	100.0	100.0

（2）年代

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
18～19歳	28	1.3%	2.2%
20代	193	8.6	13.5
30代	295	13.2	14.9
40代	406	18.1	16.5
50代	472	21.1	18.4
60代	384	17.1	12.7
70歳以上	438	19.6	21.7
無回答	24	1.1	
全 体	2,240	100.0	100.0

（3）居住区

属 性	回答者数	比率	市全体の人口比率
西 区	145	6.5%	7.0%
北 区	256	11.4	11.3
大宮区	230	10.3	9.5
見沼区	269	12.0	12.3
中央区	177	7.9	7.7
桜 区	155	6.9	7.3
浦和区	286	12.8	12.4
南 区	315	14.1	14.4
緑 区	211	9.4	9.7
岩槻区	176	7.9	8.4
無回答	20	0.9	
全 体	2,240	100.0	

（4）主な移動手段（複数回答）

属 性	回答者数	比率
徒 歩	1,197	53.4%
自転車	976	43.6
自家用車	1,142	51.0
バイク	72	3.2
電 車	1,215	54.2
バ ス	536	23.9
タクシー	79	3.5
その他	9	0.4
無回答	21	0.9

（5）職業

属 性	回答者数	比率
自営業主・家業手伝い	144	6.4%
勤め人(正規職員・正社員)	884	39.5
勤め人(パート・アルバイトなど)	425	19.0
学 生	65	2.9
専業主婦・専業主夫	304	13.6
無職	320	14.3
その他	44	2.0
無回答	54	2.4
全 体	2,240	100.0

（5－1）勤務先・通学先

属 性	回答者数	比率
さいたま市内	673	44.3%
さいたま市以外の埼玉県内	241	15.9
東京都23区	492	32.4
その他の東京都	36	2.4
その他の道府県	50	3.3
無回答	26	1.7
有職者・学生全体	1,518	100.0

（5－2）通勤・通学時間

属 性	回答者数	比率
30分未満	588	38.7%
30分～1時間未満	405	26.7
1時間～1時間半未満	389	25.6
1時間半～2時間未満	97	6.4
2時間以上	16	1.1
無回答	23	1.5
有職者・学生全体	1,518	100.0

(6) 同居している家族構成

属 性	回答者数	比率
一人暮らし	249	11.1%
夫婦だけ	608	27.1
親子（2世代）	1,181	52.7
親と子と孫（3世代）	104	4.6
その他	55	2.5
無回答	43	1.9
全 体	2,240	100.0

(7) 子どもの有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,471	65.7%
いない	717	32.0
無回答	52	2.3
全 体	2,240	100.0

(7-1) 子どもの年代（複数回答）

属 性	回答者数	比率
小学校入学前（0～6歳）	198	13.5%
小学生・中学生	337	22.9
高校生・大学生・大学院生・ 短大生・専門学校生	263	17.9
学校教育終了	761	51.7
その他	109	7.4
無回答	9	0.6

(8) 65歳以上の家族の有無

属 性	回答者数	比率
いる	1,140	50.9%
いない	1,065	47.5
無回答	35	1.6
全 体	2,240	100.0

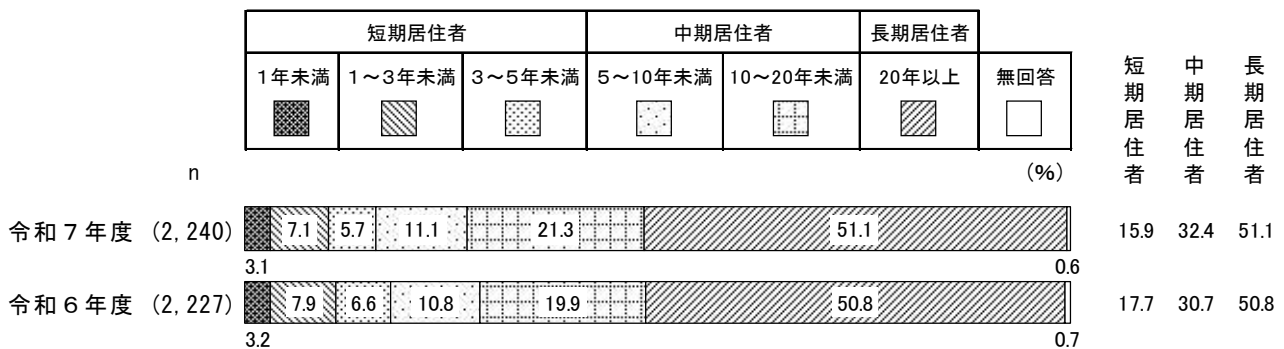
(9) 居住形態

属 性	回答者数	比率
持ち家の一戸建て	1,227	54.8%
持ち家の集合住宅	478	21.3
社宅、公務員住宅など	36	1.6
民間の借家(一戸建て、集合住宅)	375	16.7
公営の借家(UR、市・県営住宅など)	62	2.8
その他	17	0.8
無回答	45	2.0
全 体	2,240	100.0

3 調査の結果

(1) 地域での生活

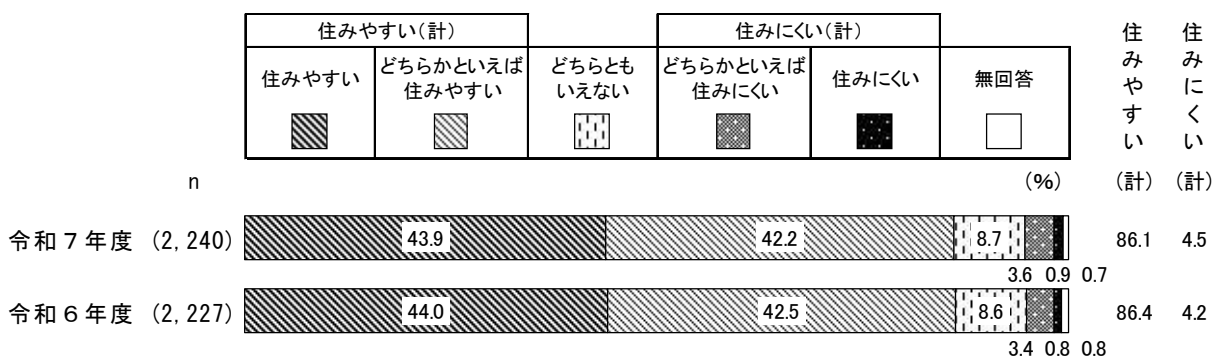
問1 あなたは、現在の「地域」にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)



「1年未満」(3.1%)、「1～3年未満」(7.1%)、「3～5年未満」(5.7%)を合わせた『短期居住者』が15.9%、「5～10年未満」(11.1%)と「10～20年未満」(21.3%)を合わせた『中期居住者』が32.4%、「20年以上」の『長期居住者』が51.1%であった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

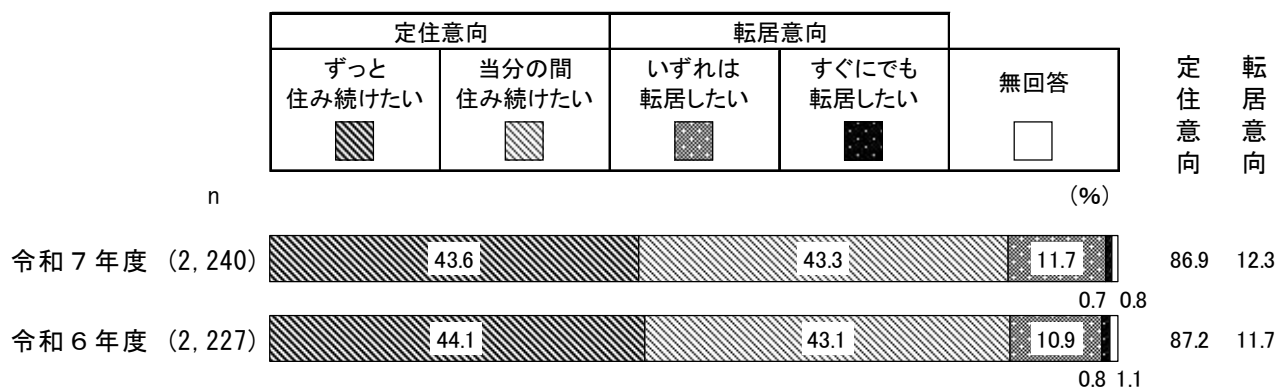
問2 あなたがお住まいの「地域」の住み心地はどうか。(○は1つ)



「住みやすい」(43.9%)と「どちらかといえば住みやすい」(42.2%)を合わせた『住みやすい(計)』(86.1%)は、8割半ばであった。一方、「どちらかといえば住みにくい」(3.6%)と「住みにくい」(0.9%)を合わせた『住みにくい(計)』(4.5%)は、1割未満であった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問3 あなたは、現在お住まいの「地域」にこれからも住みたいと思いますか。(○は1つ)

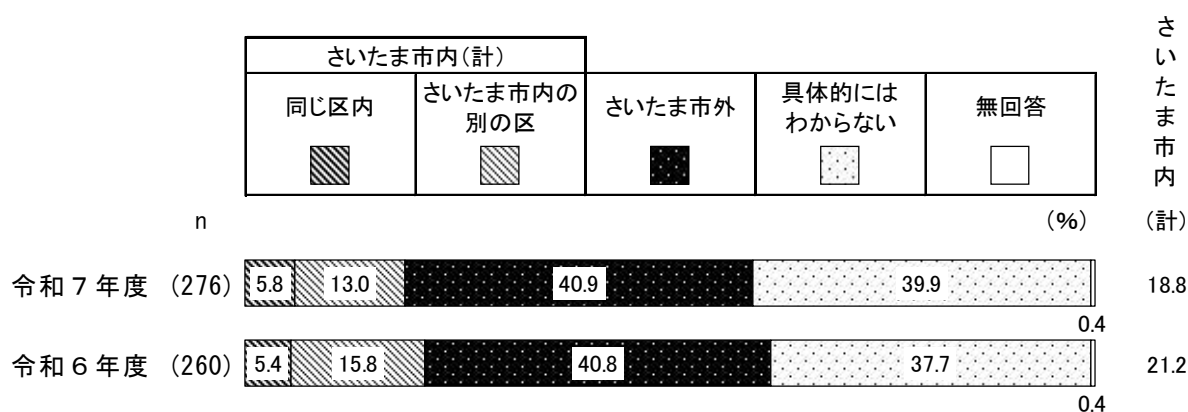


「ずっと住みたい」(43.6%)と「当分の間住みたい」(43.3%)を合わせた『定住意向』(86.9%)は、9割近くであった。一方、「いずれは転居したい」(11.7%)と「すぐにでも転居したい」(0.7%)を合わせた『転居意向』(12.3%)は、1割を超えた。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(問3で「いずれは転居したい」「すぐにでも転居したい」と答えた方に)

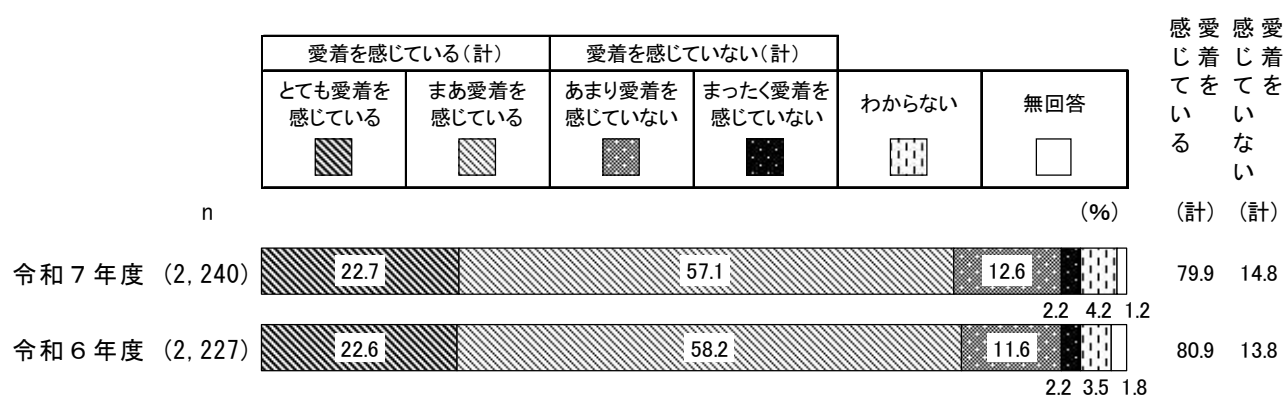
問3-1 どこに転居したいと思いますか。(○は1つ)



「いずれは転居したい」「すぐにでも転居したい」と答えた人の、希望する転居先は、「さいたま市外」が40.9%で、「同じ区内」(5.8%)と「さいたま市内の別の区」(13.0%)を合わせた『さいたま市内(計)』(18.8%)を上回った。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問4 あなたは、現在お住まいの「地域」に愛着を感じていますか。(○は1つ)

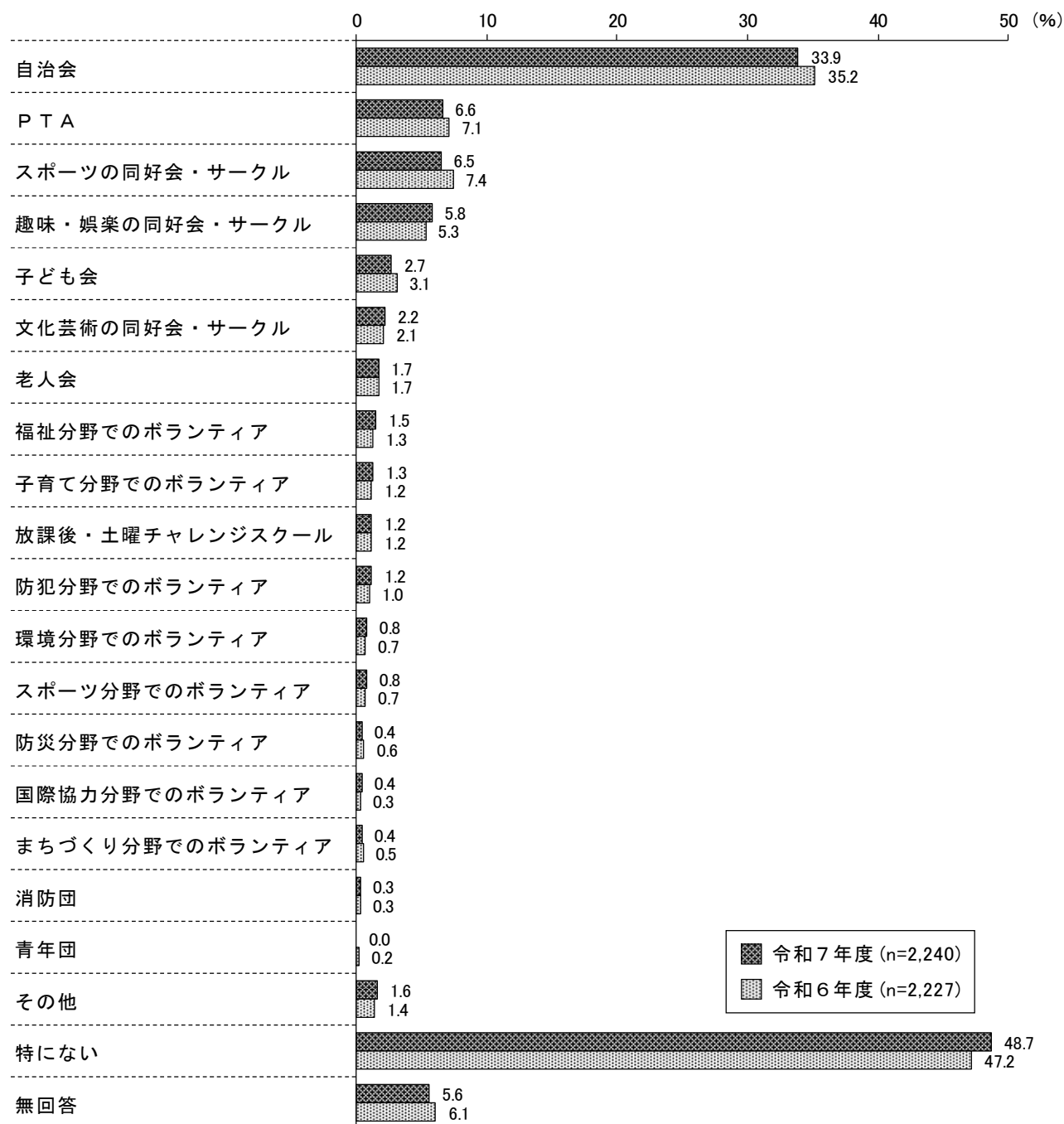


「とても愛着を感じている」(22.7%)と「まあ愛着を感じている」(57.1%)を合わせた『愛着を感じている(計)』(79.9%)は、8割であった。一方、「あまり愛着を感じていない」(12.6%)と「まったく愛着を感じていない」(2.2%)を合わせた『愛着を感じていない(計)』(14.8%)は、1割半ばであった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

(1) 現在、参加しているすべての活動に○をつけてください。(○はいくつでも)

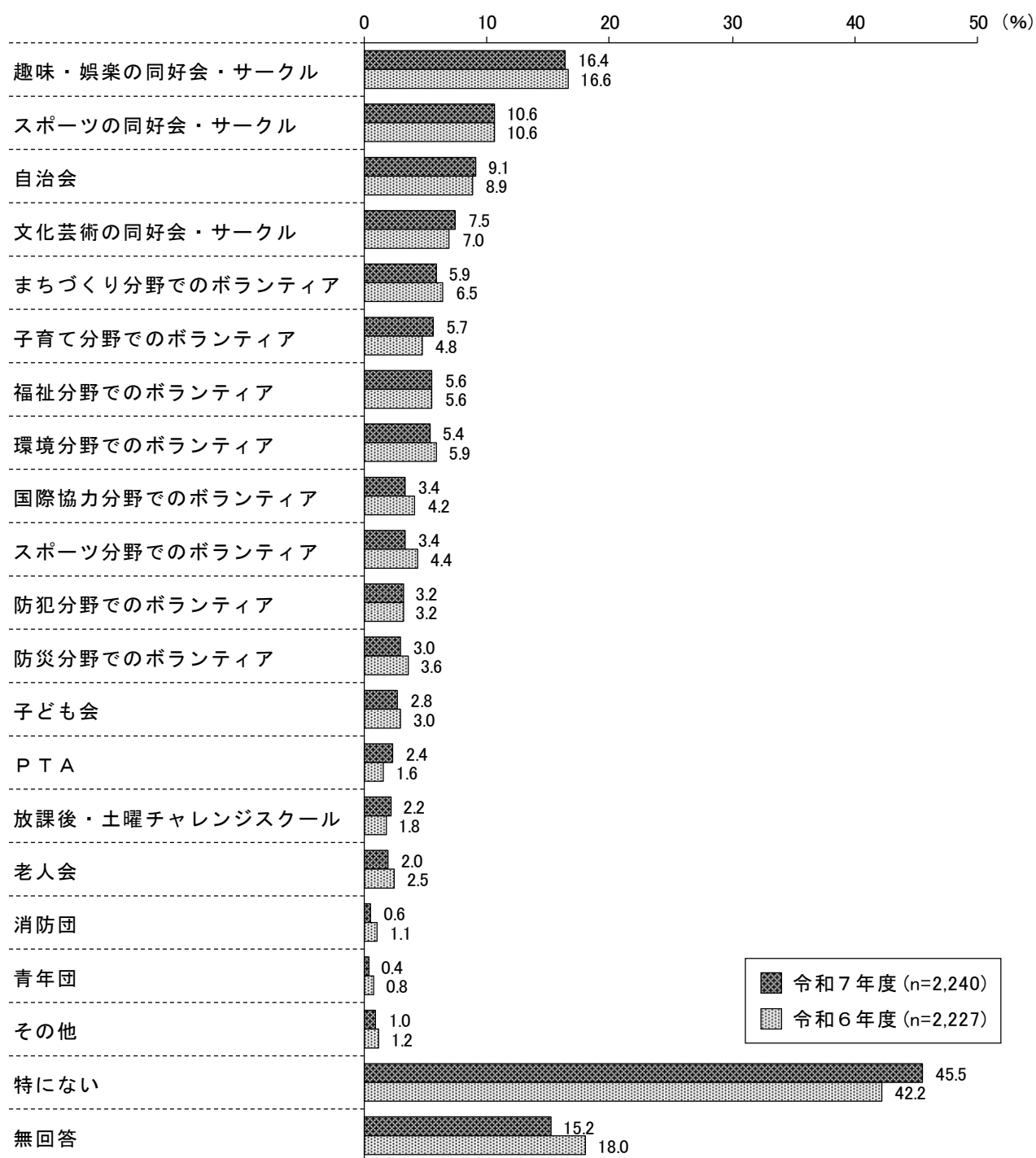


「自治会」(33.9%)が3割を超えたが、それ以外の活動はいずれも1割未満であった。一方、参加している活動が「特にない」(48.7%)は5割近くであった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問5 あなたは、どんな活動に参加していますか。

（2）今後、参加したいと思うすべての活動に○をつけてください。引き続き参加したい活動も含みます。（○はいくつでも）



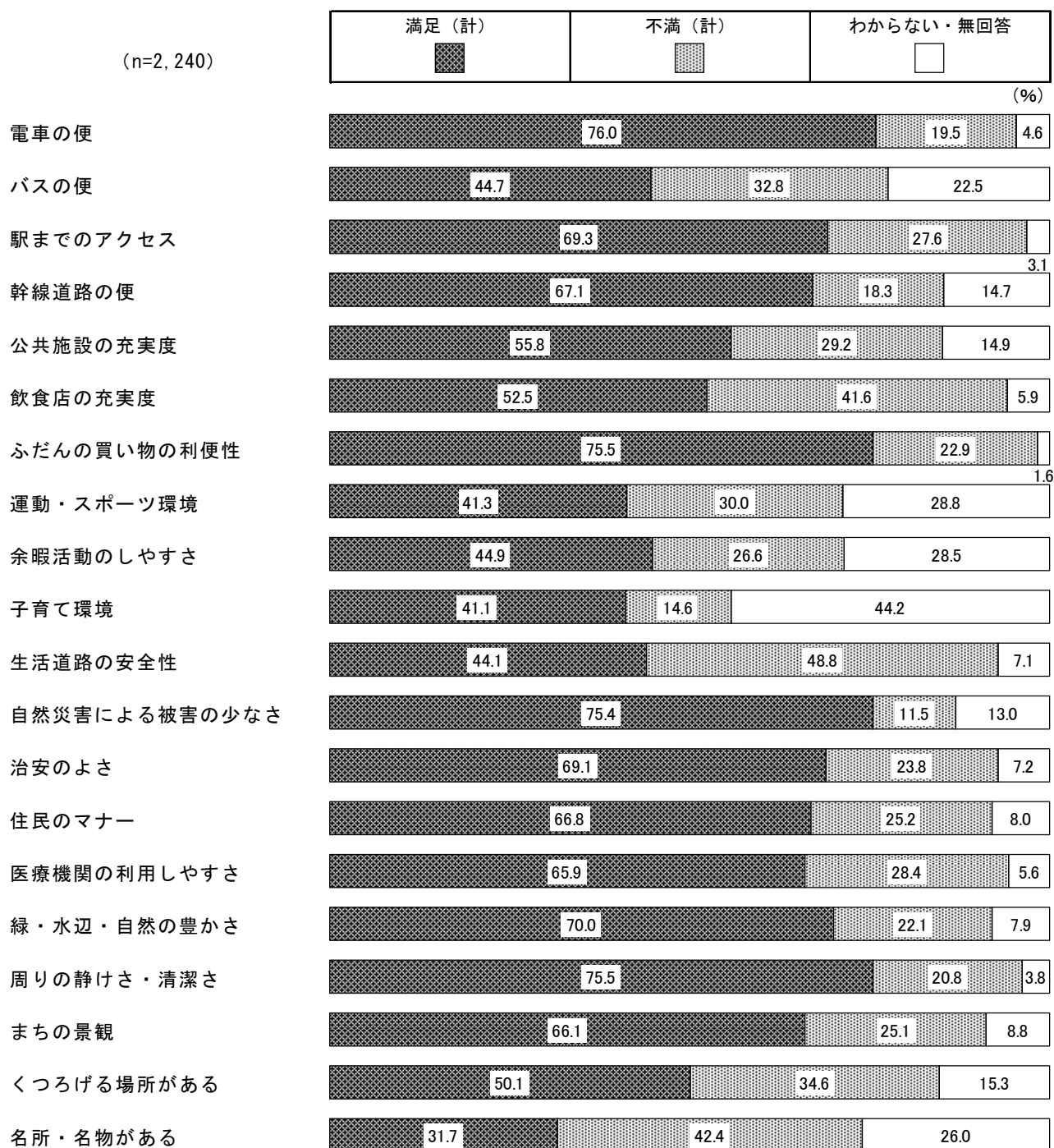
「趣味・娯楽の同好会・サークル」（16.4%）が1割半ば、「スポーツの同好会・サークル」（10.6%）がほぼ1割で、それ以外の活動はいずれも1割未満であった。一方、今後、参加したいと思う活動が「特にない」（45.5%）は4割半ばであった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(1) あなたは、お住まいの「地域」について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

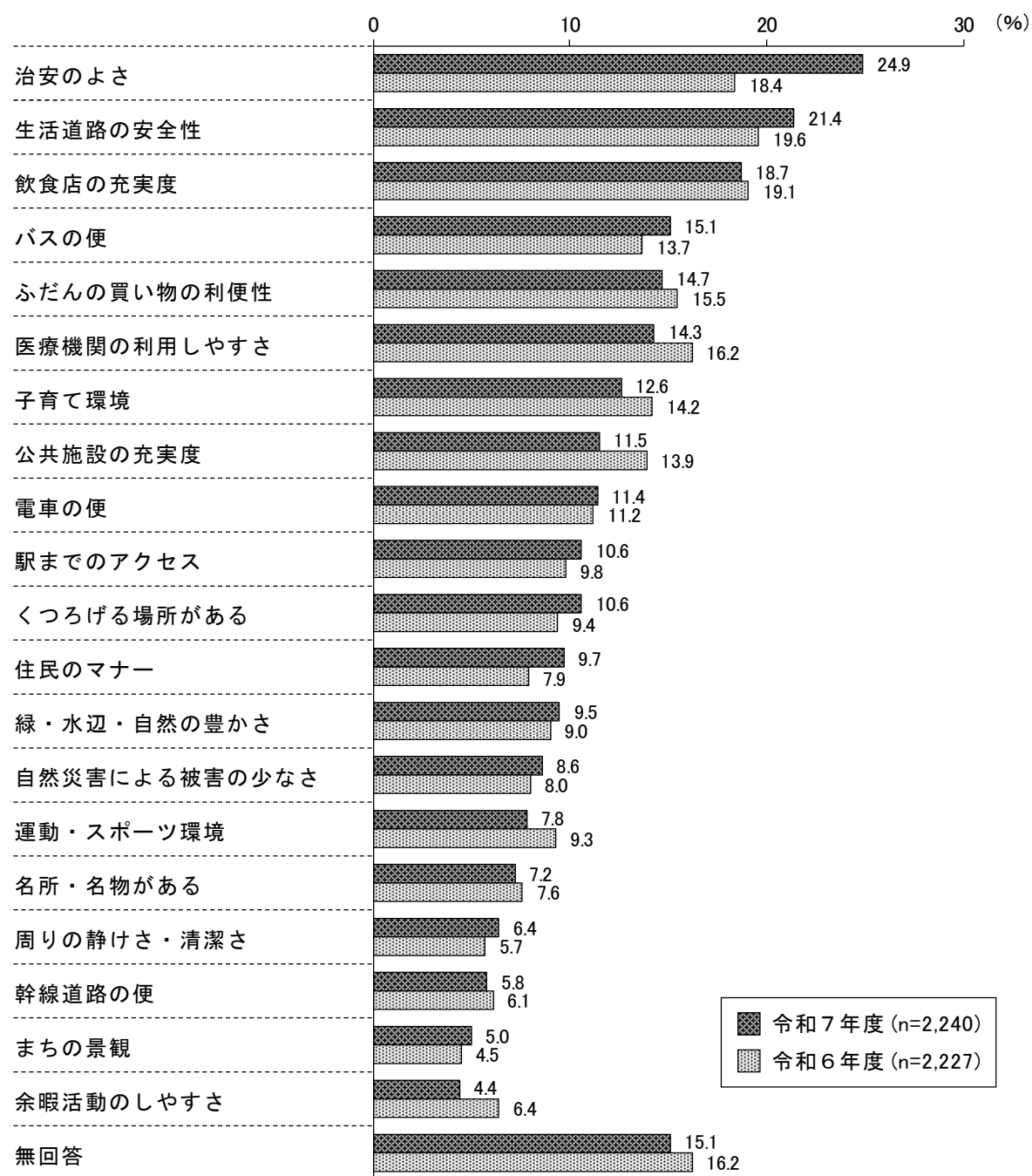


「満足」と「やや満足」を合わせた『満足 (計)』は、「電車の便」(76.0%)、「ふだんの買い物の利便性」、「周りの静けさ・清潔さ」(ともに75.5%)、「自然災害による被害の少なさ」(75.4%)が7割半ばであった。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満 (計)』は、「生活道路の安全性」(48.8%)、「名所・名物がある」(42.4%)、「飲食店の充実度」(41.6%)が4割台であった。

問6 あなたの現在お住まいの「地域」について質問します。

(2) あなたは、お住まいの「地域」が、今後どのような方向へ発展してほしいと思いますか。

(〇は3つまで)



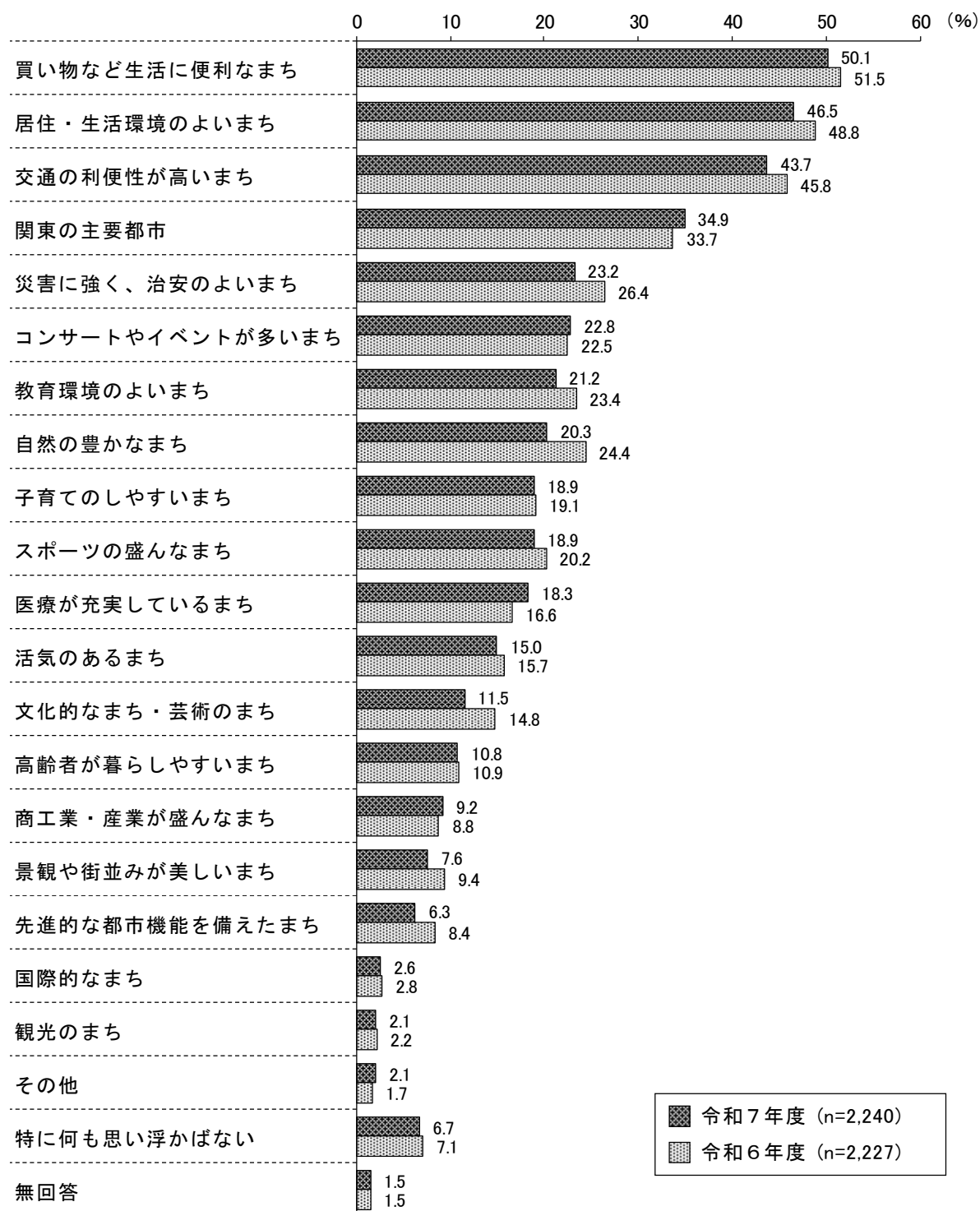
「治安のよさ」が 24.9%で最も高く、「生活道路の安全性」(21.4%)、「飲食店の充実度」(18.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「治安のよさ」が 6.5 ポイント増加した。

(2) さいたま市のイメージ

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1) あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)



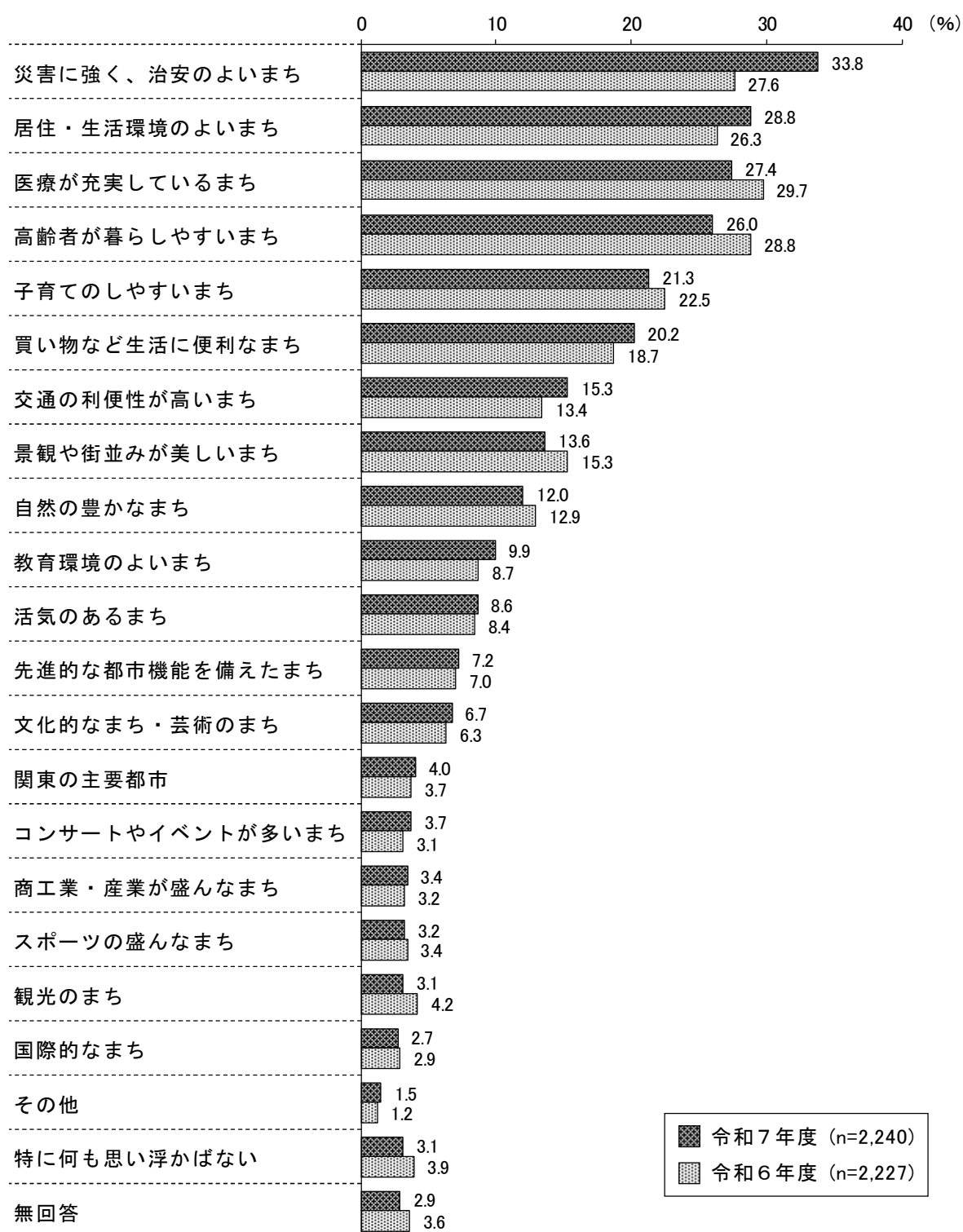
「買い物など生活に便利なまち」が50.1%で最も高く、「居住・生活環境のよいまち」(46.5%)、「交通の利便性が高いまち」(43.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「自然の豊かなまち」(20.3%)が4.1ポイント減少した。

問7 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(2) あなたは、「さいたま市」が、今後どのような方向へ発展してほしいと思いますか。

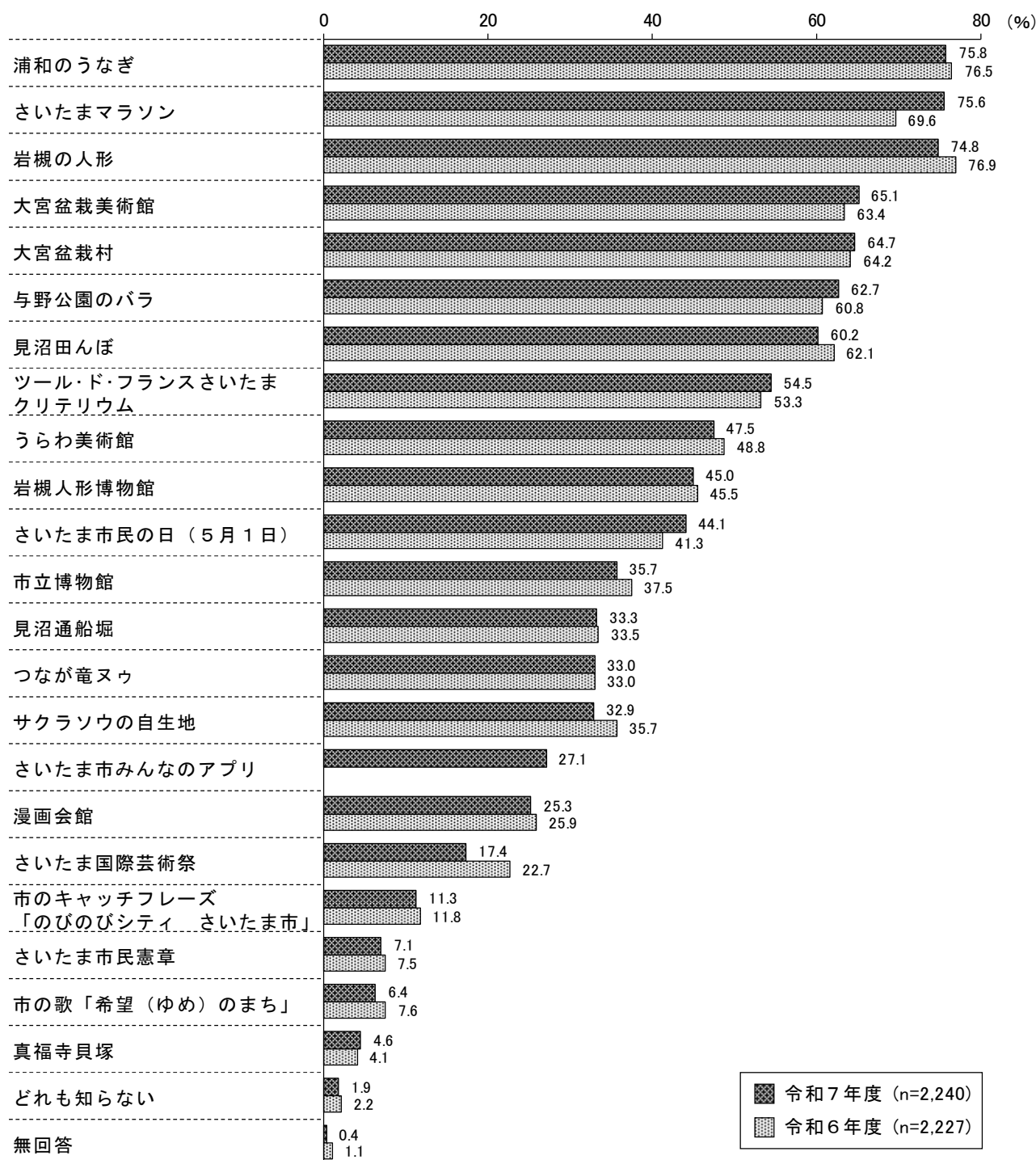
(○は3つまで)



「災害に強く、治安のよいまち」が33.8%で最も高く、「居住・生活環境のよいまち」(28.8%)、「医療が充実しているまち」(27.4%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「災害に強く、治安のよいまち」が6.2ポイント増加した。

問8 さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



(注記)「さいたま市みんなのアプリ」は、令和7年度調査から選択肢に加えた。

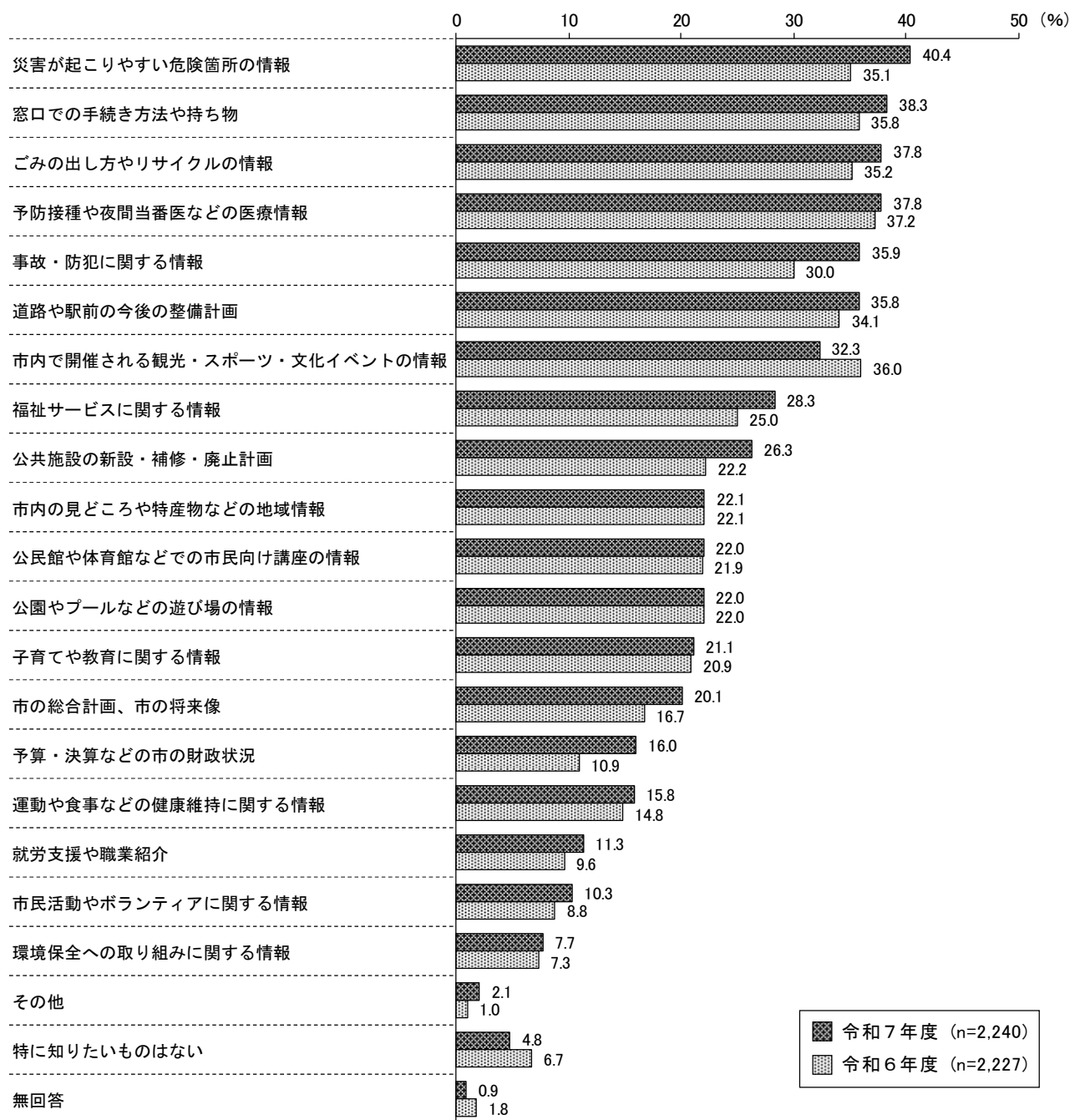
「浦和のうなぎ」が75.8%で最も高く、「さいたまマラソン」(75.6%)、「岩槻の人形」(74.8%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「さいたまマラソン」が6.0ポイント増加した一方、「さいたま国際芸術祭」(17.4%)が5.3ポイント減少した。

(3) 市政との関わり

問9 さいたま市役所からの情報で、あなたが特に知りたいのはどのような情報ですか。

(〇はいくつでも)

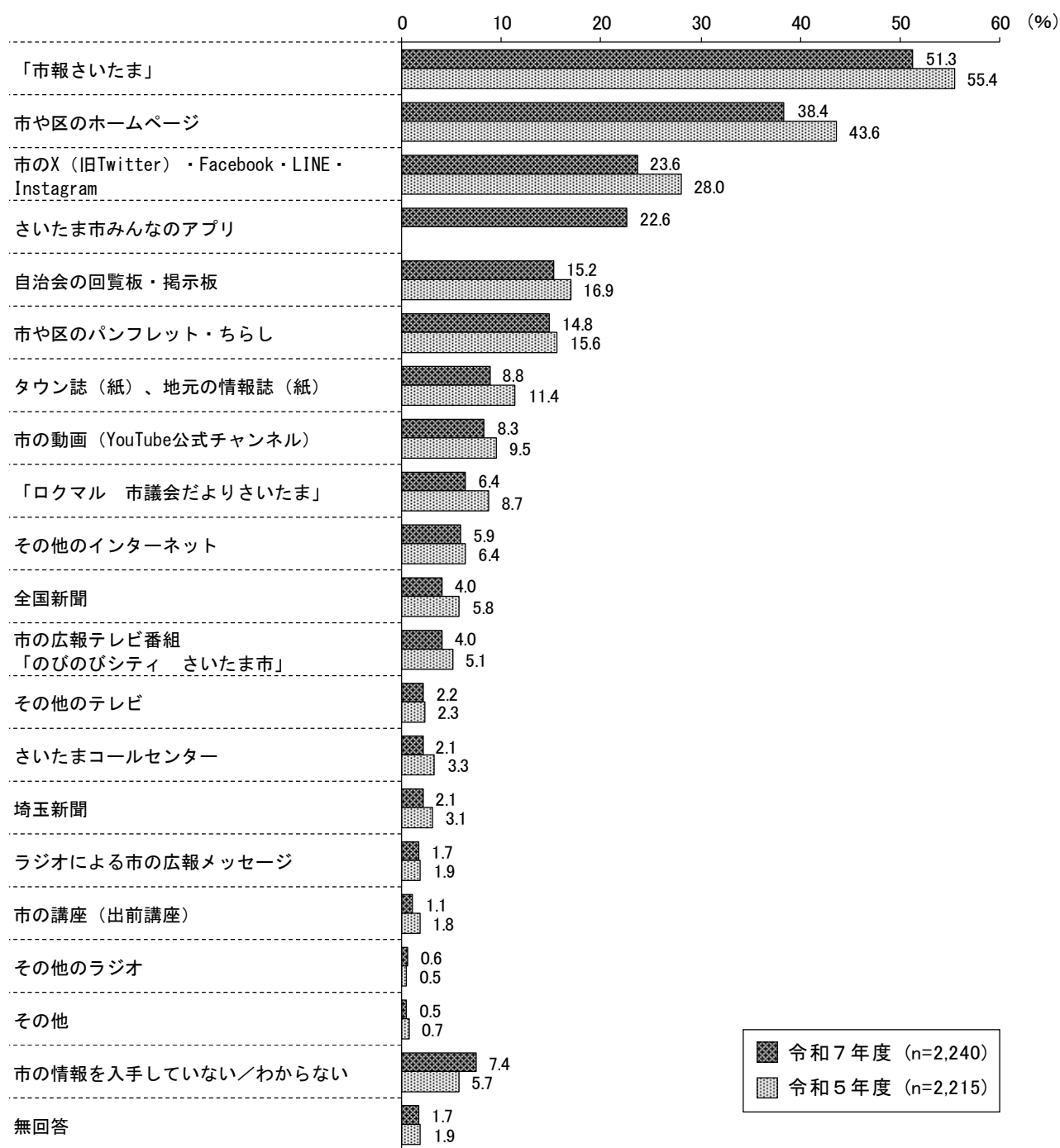


「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が40.4%で最も高く、「窓口での手続き方法や持ち物」(38.3%)、「ごみの出し方やリサイクルの情報」、「予防接種や夜間当番医などの医療情報」(ともに37.8%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「事故・防犯に関する情報」(35.9%)が5.9ポイント、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が5.3ポイント、「予算・決算などの市の財政状況」(16.0%)が5.1ポイント、「公共施設の新設・補修・廃止計画」(26.3%)が4.1ポイント増加した。

問 10 あなたは、さいたま市役所が発信する情報入手するにあたり、今後、どのような媒体が充実するとよいと思いますか。以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。

(○は3つまで)

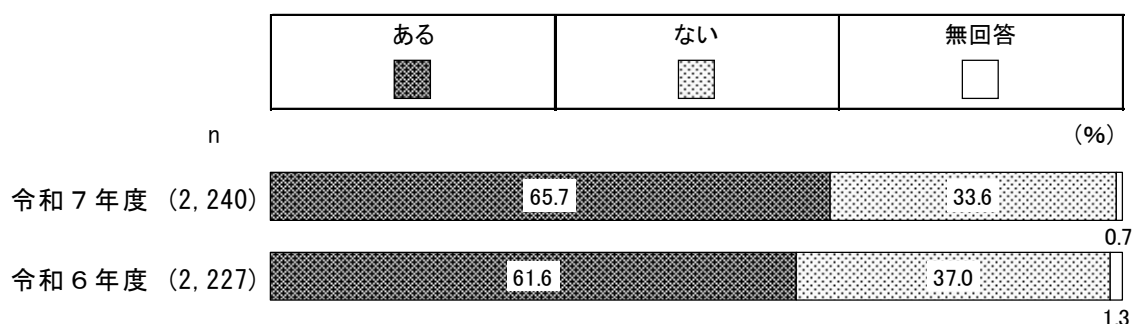


(注記)「さいたま市みんなのアプリ」は、令和7年度調査から選択肢に加えた。

「市報さいたま」が51.3%で最も高く、「市や区のホームページ」(38.4%)、「市のX (旧 Twitter) ・ Facebook ・ LINE ・ Instagram」(23.6%)が続いた。

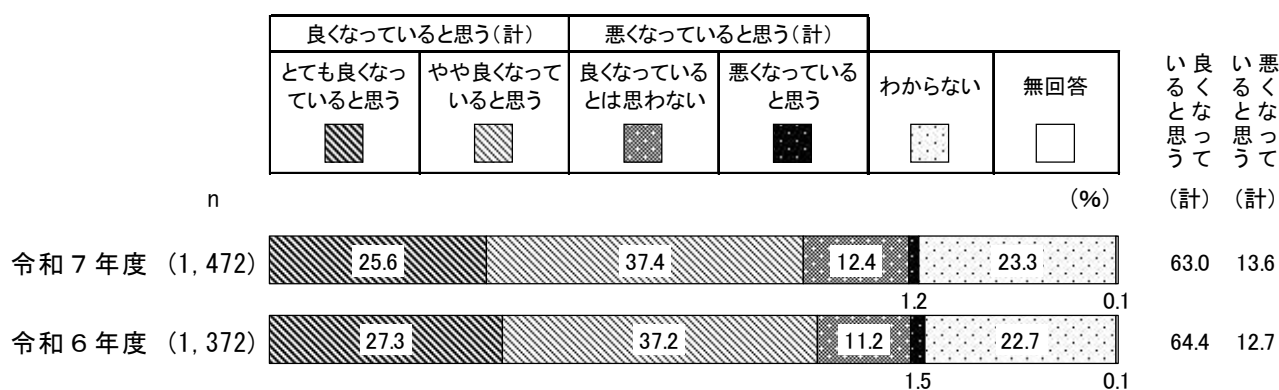
令和5年度の調査結果と比較すると、「市や区のホームページ」が5.2ポイント、「市のX (旧 Twitter) ・ Facebook ・ LINE ・ Instagram」が4.4ポイント、「市報さいたま」が4.1ポイント減少した。

問 11 あなたは、この 1 年以内で、市・区役所を利用したり、電話で問い合わせをしたりしたことがありますか。(○は 1 つ)



1 年以内に利用・問い合わせ経験が「ある」は 65.7%であった。
令和 6 年度の調査結果と比較すると、「ある」が 4.1 ポイント増加した。

(問 11 で「ある」と答えた方に)
問 11-1 あなたは、最近の市職員のイメージをどう思いますか。(○は 1 つ)

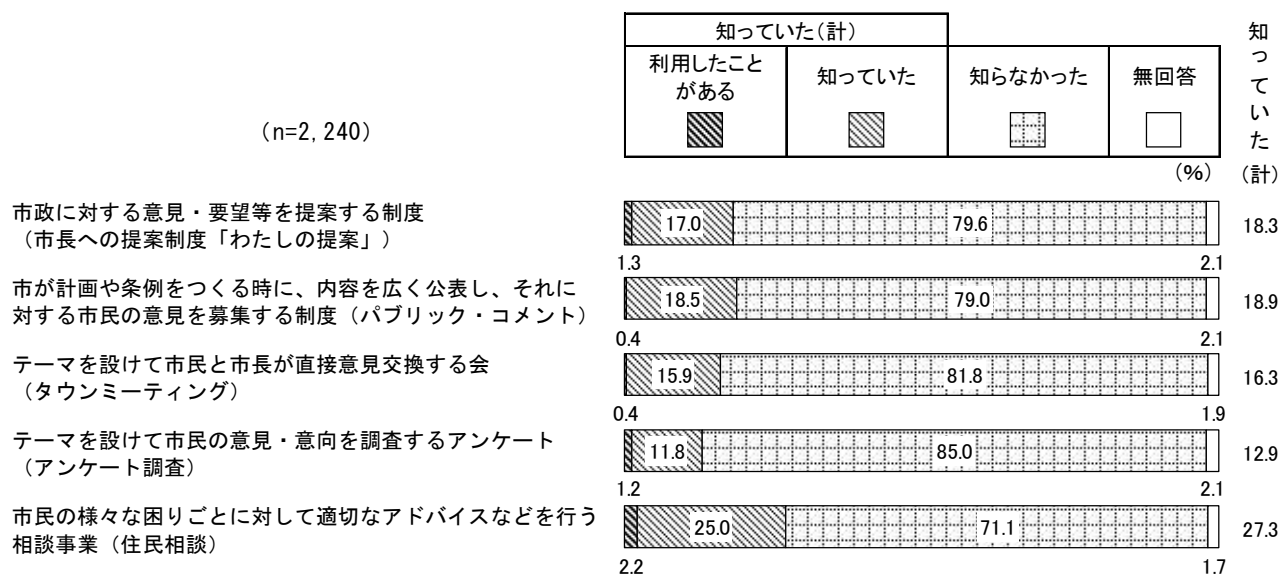


「とても良くなっていると思う」(25.6%)と「やや良くなっていると思う」(37.4%)を合わせた『良くなっていると思う(計)』(63.0%)は、6割を超えた。一方、「良くなっているとは思わない」(12.4%)と「悪くなっていると思う」(1.2%)を合わせた『悪くなっていると思う(計)』(13.6%)は、1割を超えた。

令和 6 年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問 12 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

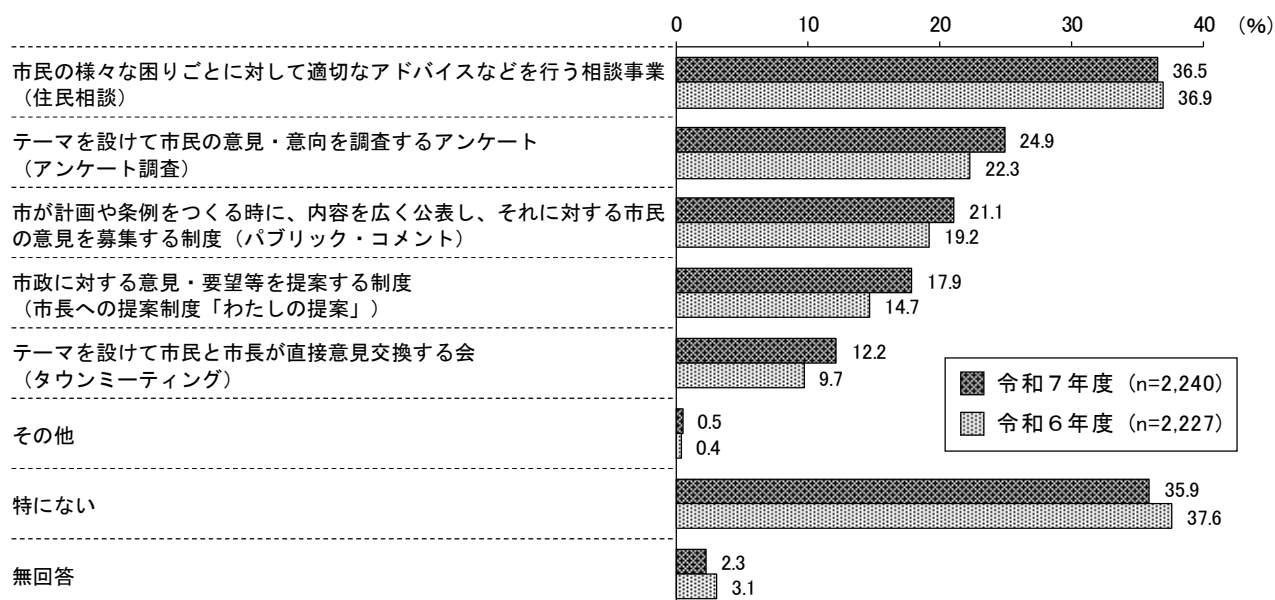
(1) 以下の1～5の事業について、どの程度知っていましたか。(○はそれぞれ1つずつ)



「利用したことがある」と「知っていた」を合わせた『知っていた(計)』は、「住民相談」が27.3%で最も高かった。

問 12 さいたま市では、広く市民の声を聴く事業を行っています。

(2) 前問と同じ1～5の項目で、あなたが今後利用してみたい、あるいは、機会があれば協力してみたい事業に○をつけてください。(○はいくつでも)



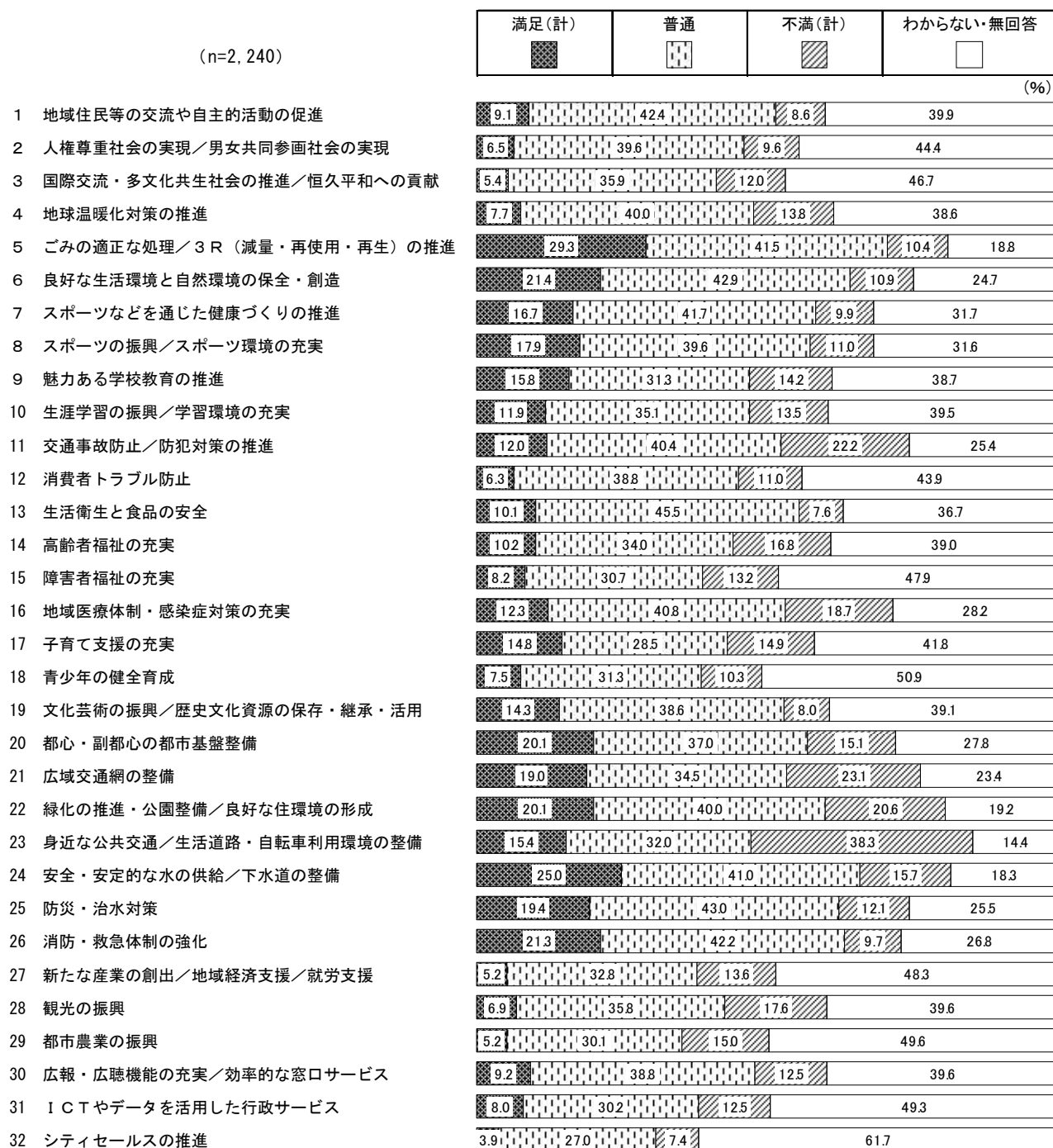
「住民相談」が36.5%で最も高く、「アンケート調査」(24.9%)、「パブリック・コメント」(21.1%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「市長への提案制度「わたしの提案」」(17.9%)が3.2ポイント増加した。

(4) 市政への満足度・重視度

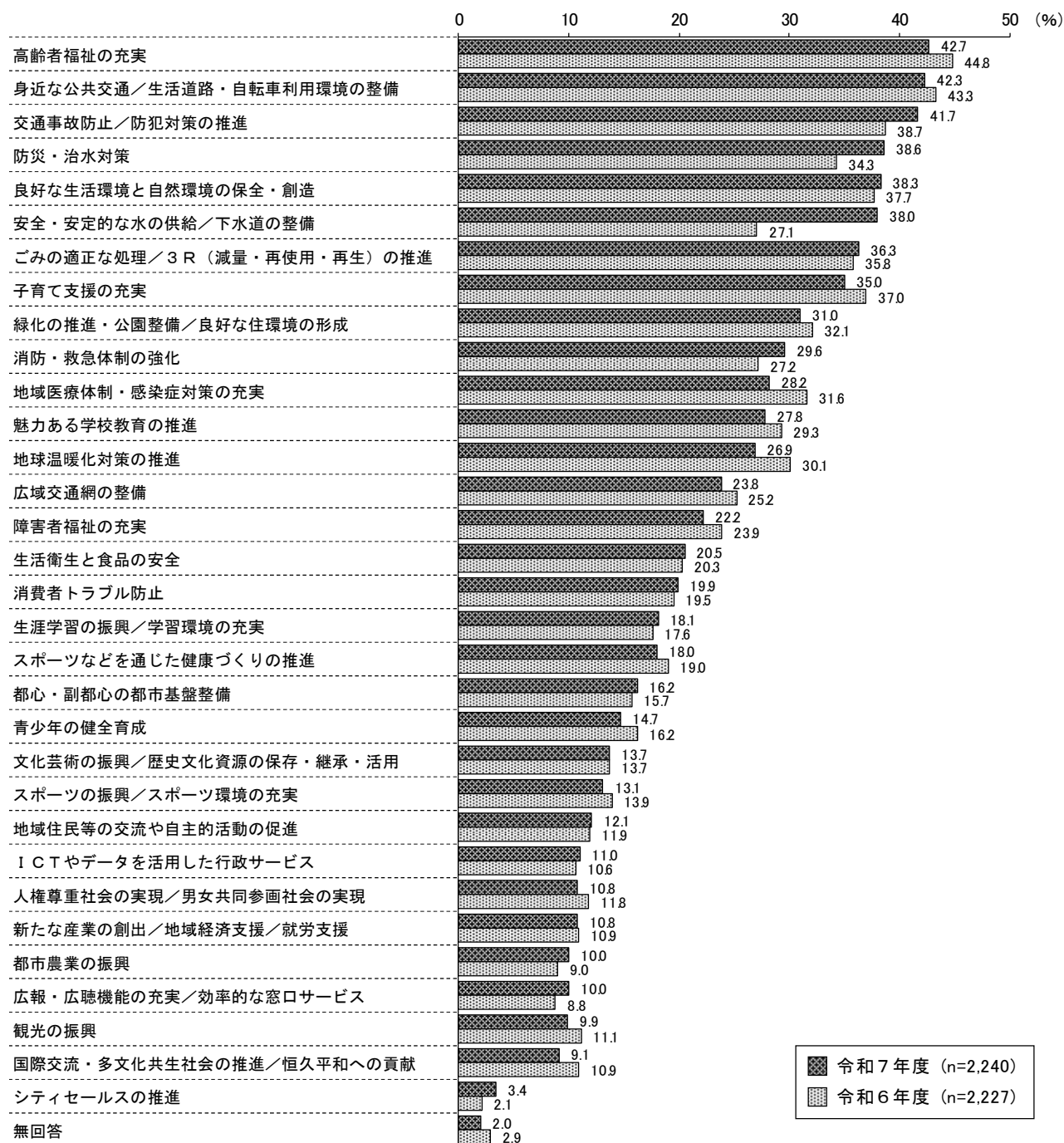
問 13 あなたは、以下の 1～32 の施策や事業について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ 1 つずつ)



「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は、「ごみの適正な処理／3R（減量・再使用・再生）の推進」が 29.3%で最も高く、「安全・安定的な水の供給／下水道の整備」(25.0%)、「良好な生活環境と自然環境の保全・創造」(21.4%)、「消防・救急体制の強化」(21.3%)が続いた。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満(計)』は、「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」が 38.3%で最も高く、「広域交通網の整備」(23.1%)、「交通事故防止／防犯対策の推進」(22.2%)が続いた。

問 14 前問と同じ 1～32 の項目の中で、あなたが、今後力を入れて取り組んでほしいと思うものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

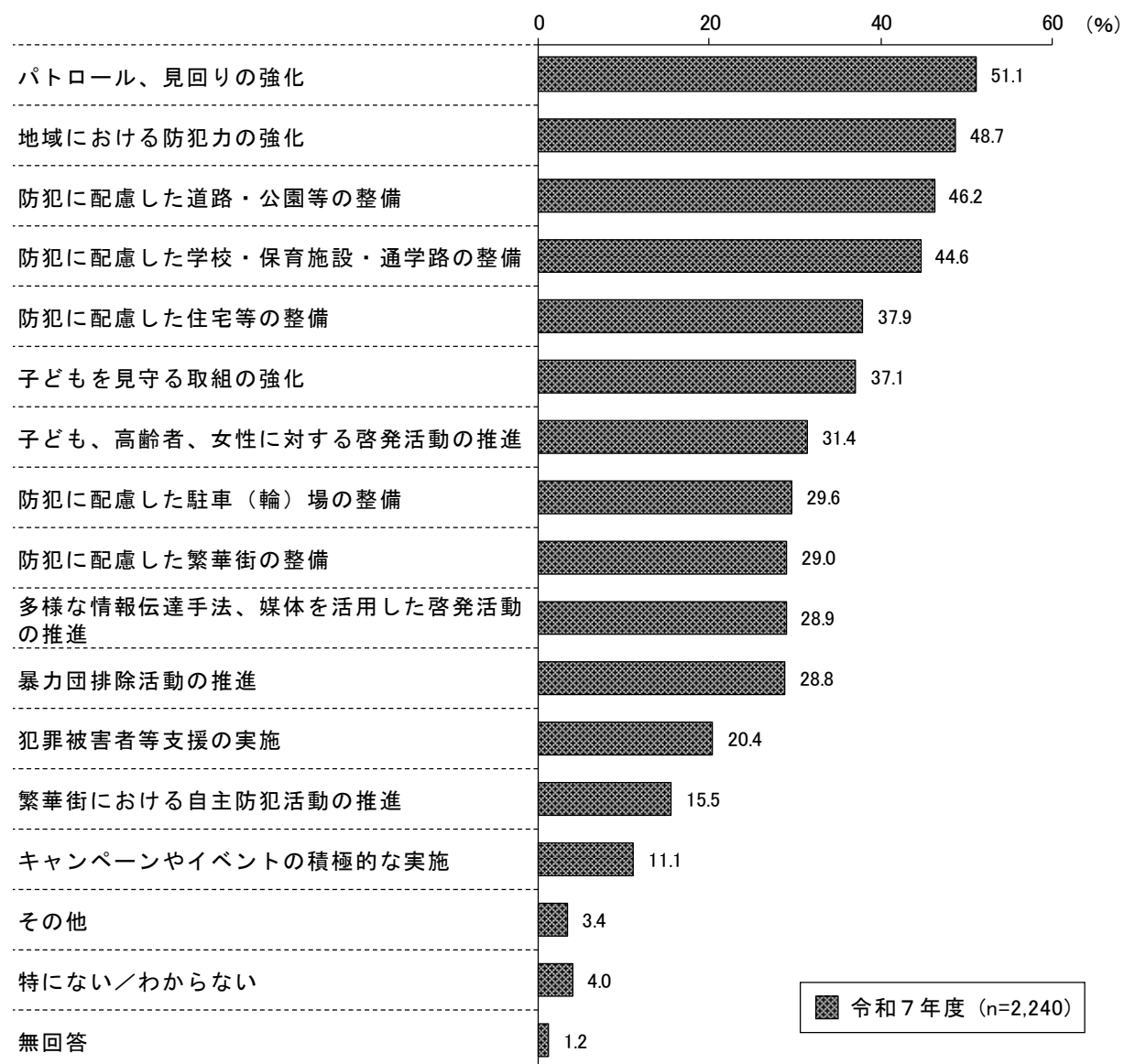


「高齢者福祉の充実」が 42.7%で最も高く、「身近な公共交通／生活道路・自転車利用環境の整備」(42.3%)、「交通事故防止／防犯対策の推進」(41.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「安全・安定的な水の供給／下水道の整備」(38.0%)が 10.9 ポイント、「防災・治水対策」(38.6%)が 4.3 ポイント増加した。

（５）防犯対策

問 15 「防犯対策」の施策を進めるにあたって、あなたが特に重視するとよいと思うことは何ですか。（〇はいくつでも）



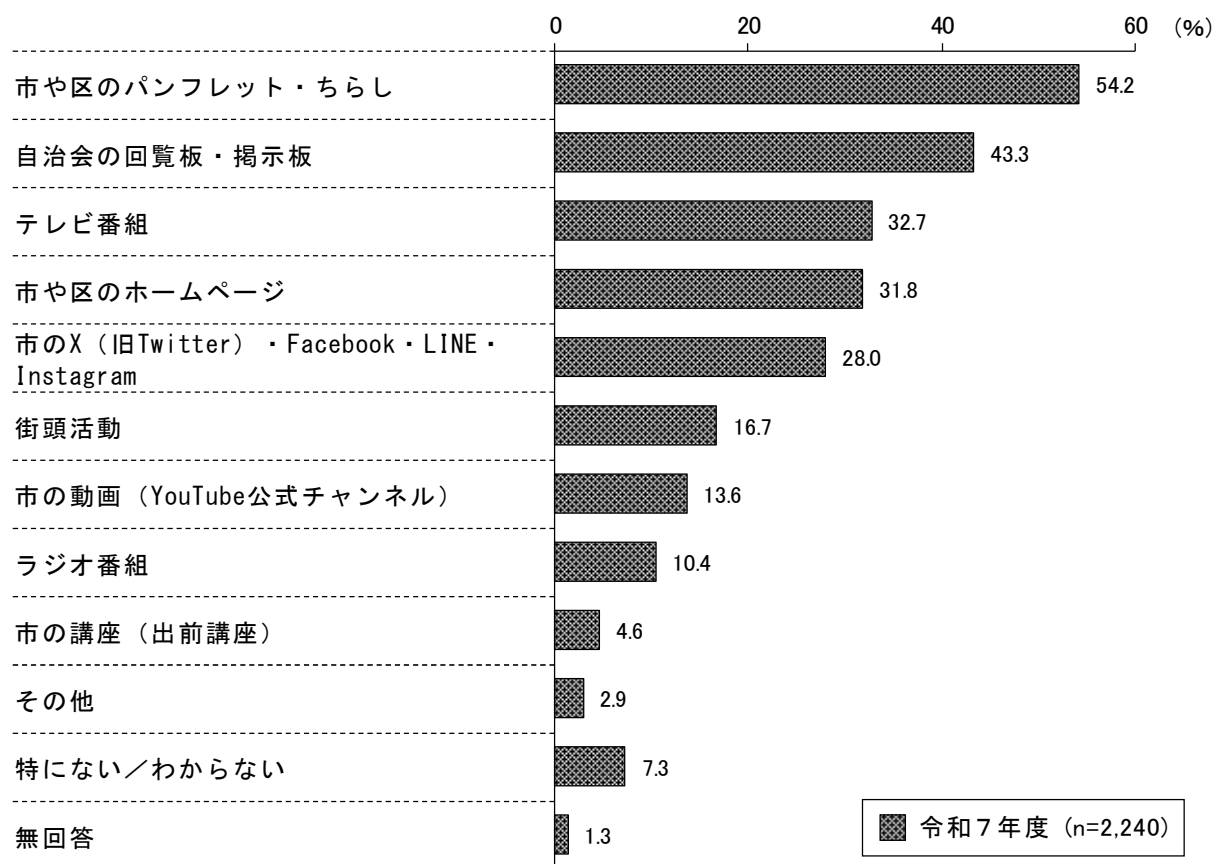
「パトロール、見回りの強化」が51.1%で最も高く、「地域における防犯力の強化」(48.7%)、「防犯に配慮した道路・公園等の整備」(46.2%)が続いた。

問 16 昨今、オレオレ詐欺や振り込め詐欺を含む特殊詐欺被害が増加し社会問題になっています。

特殊詐欺は、地域におけるパトロールや環境整備等で防止するだけでなく、個人の理解や意識向上に向けた啓発・情報提供も重要となります。そこで、「特殊詐欺防止」に関する情報をさいたま市が発信するにあたって、あなたが入手しやすいと思う媒体は何ですか。

(○はいくつでも)

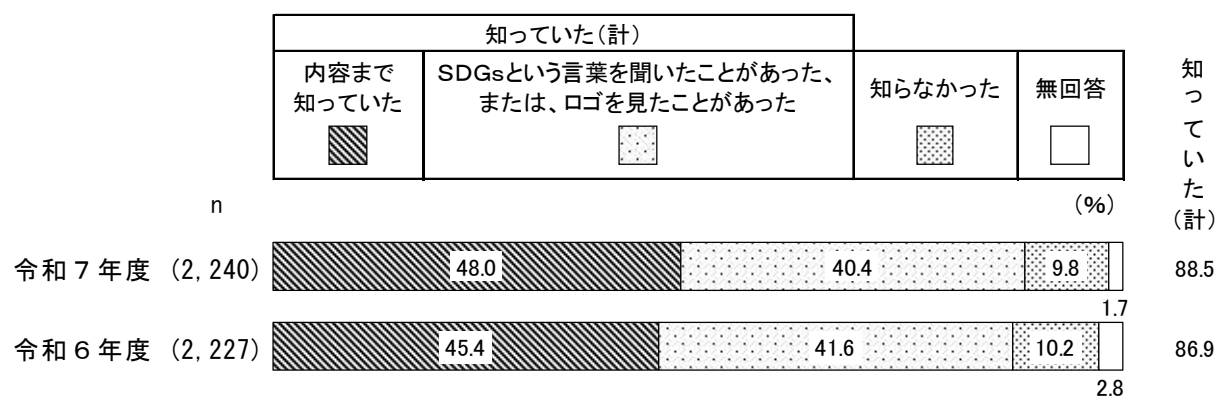
※特殊詐欺とは、被害者に電話などで対面することなく信用させ、指定した口座への振込み等の方法により、不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪の総称です。



「市や区のパンフレット・ちらし」が54.2%で最も高く、「自治会の回覧板・掲示板」(43.3%)、「テレビ番組」(32.7%)が続いた。

(6) S D G s

問 17 あなたは、S D G sについてどの程度知っていましたか。(○は1つ)



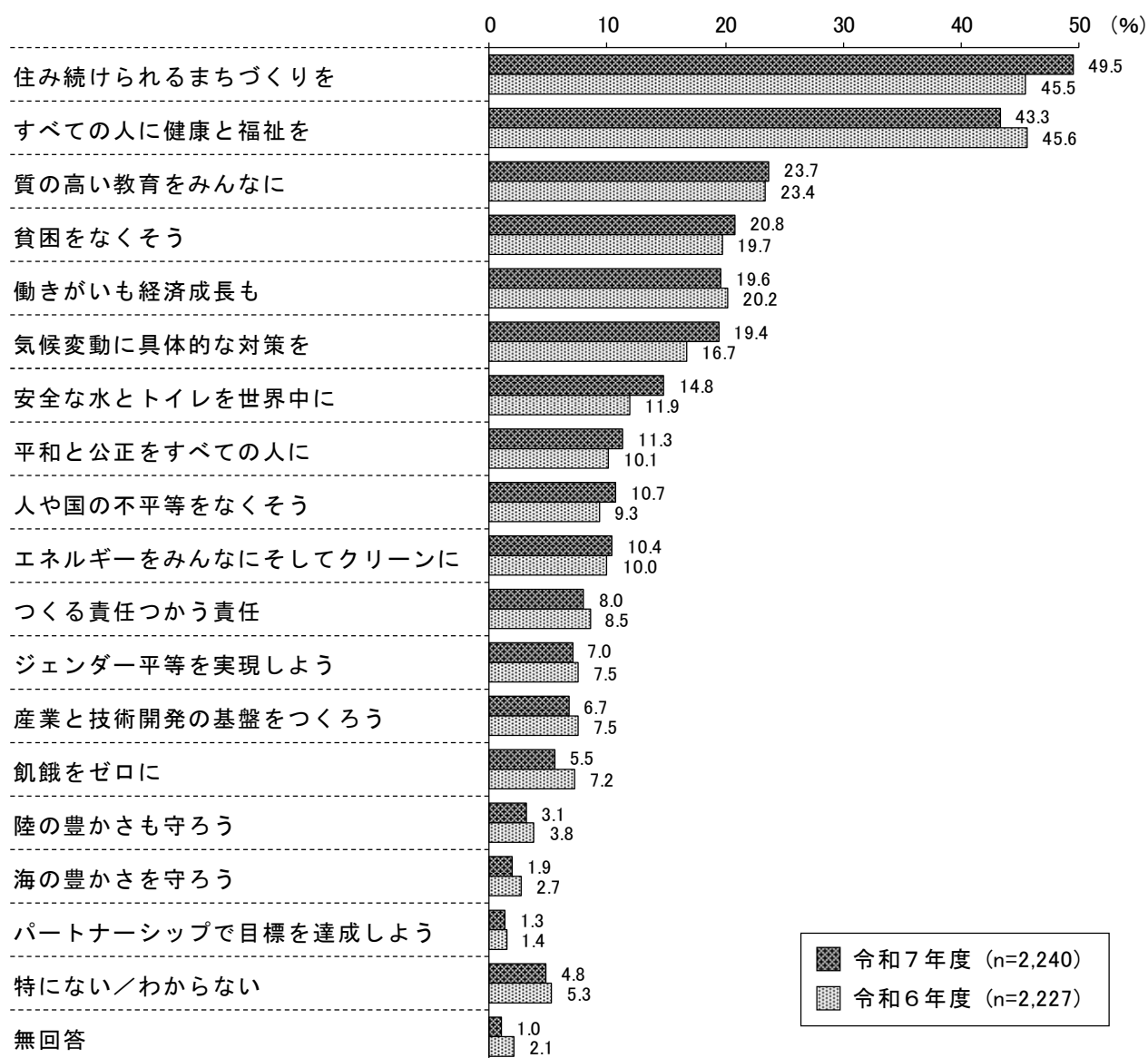
「内容まで知っていた」(48.0%)と「SDGsという言葉聞いたことがあった、または、ロゴを見たことがあった」(40.4%)を合わせた『知っていた(計)』(88.5%)は、9割近くであった。一方、「知らなかった」(9.8%)は、1割であった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問 18 SDGsは国際的な目標ですが、様々な地域で一人ひとりがその達成に向けて取り組んでいます。

今後、さいたま市が「持続可能な都市」となっていくために、どの目標の実現を重視する
 と思いますか。以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。

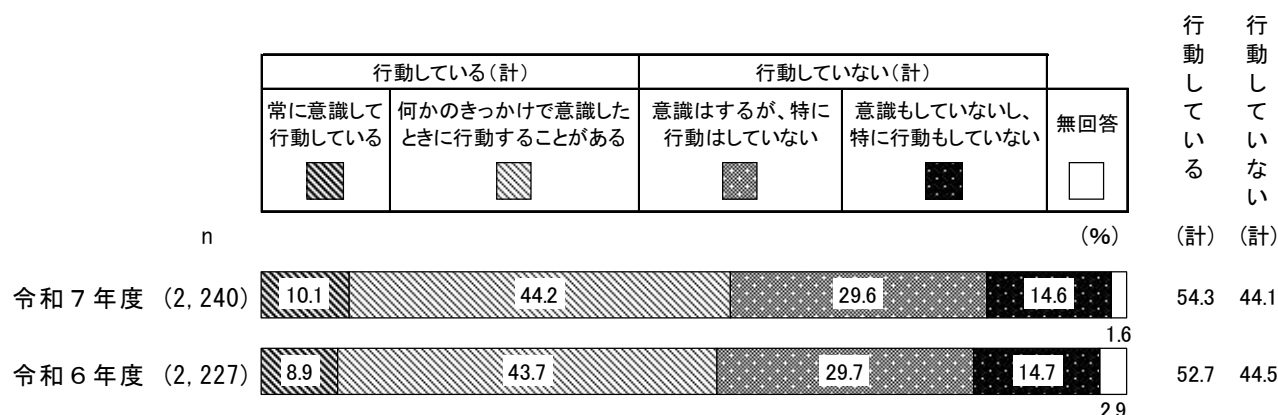
(○は3つまで)



「住み続けられるまちづくりを」が49.5%で最も高く、「すべての人に健康と福祉を」(43.3%)、「質の高い教育をみんなに」(23.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「住み続けられるまちづくりを」が4.0ポイント増加した。

問 19 あなたは、家庭や仕事などの日常生活において、SDGsの17の目標のうち、1つでも意識して行動をしていますか。(〇は1つ)

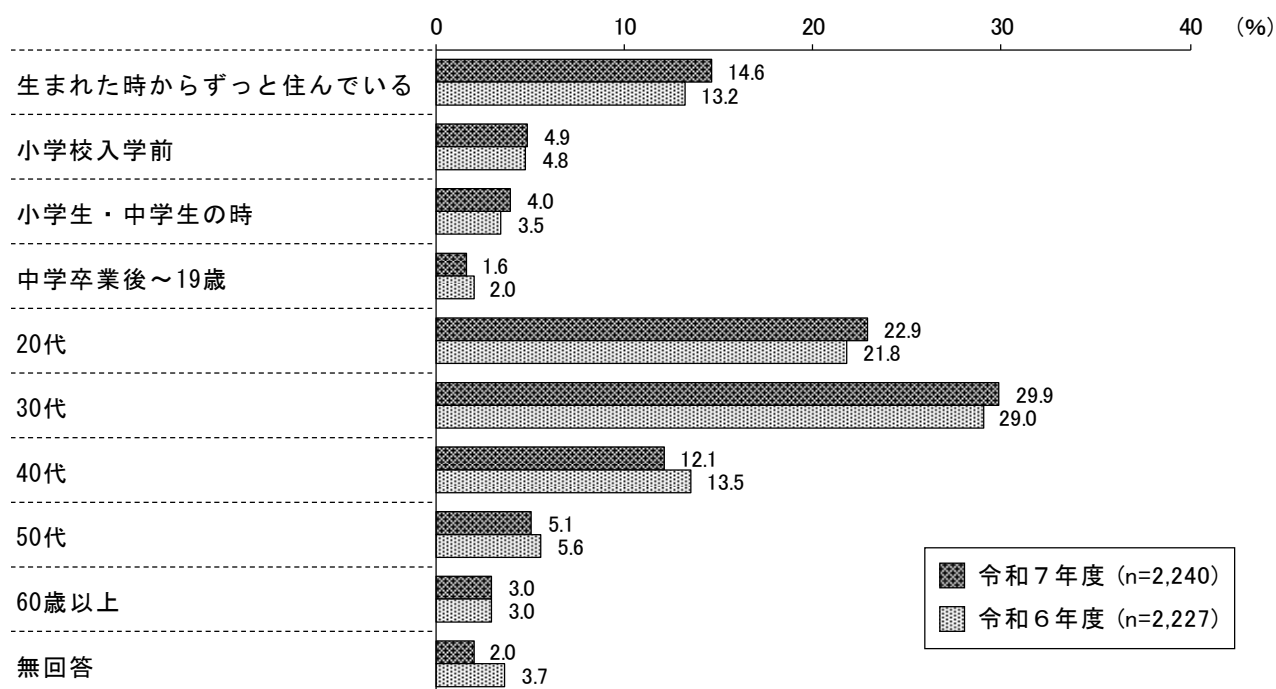


「常に意識して行動している」(10.1%)と「何かのきっかけで意識したときに行動することがある」(44.2%)を合わせた『行動している(計)』(54.3%)は、5割半ばであった。一方、「意識はするが、特に行動はしていない」(29.6%)と「意識もしていないし、特に行動もしていない」(14.6%)を合わせた『行動していない(計)』(44.1%)は、4割半ばであった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(7) 今の地域を選んだ理由

問 20 今の地域に住み始めたのは、あなたがいくつの時ですか。(〇は1つ)

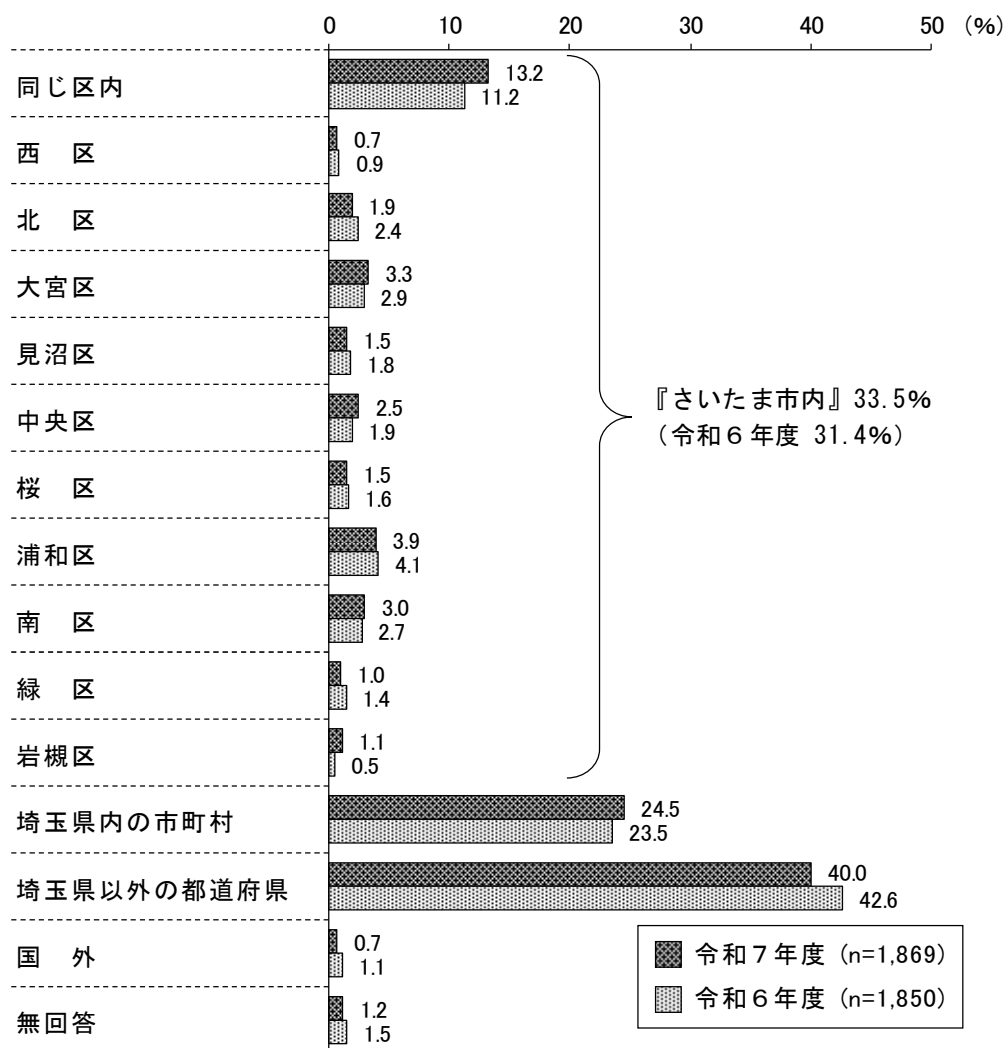


「30代」が29.9%で最も高く、「20代」(22.9%)、「生まれた時からずっと住んでいる」(14.6%)が続いた。全体の半数が20～30代に転入している。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20－1 どこから、今の地域に引っ越してきましたか。同じ区内で転居した方は、現在お住まいの区を選んでください。(〇は1つ)



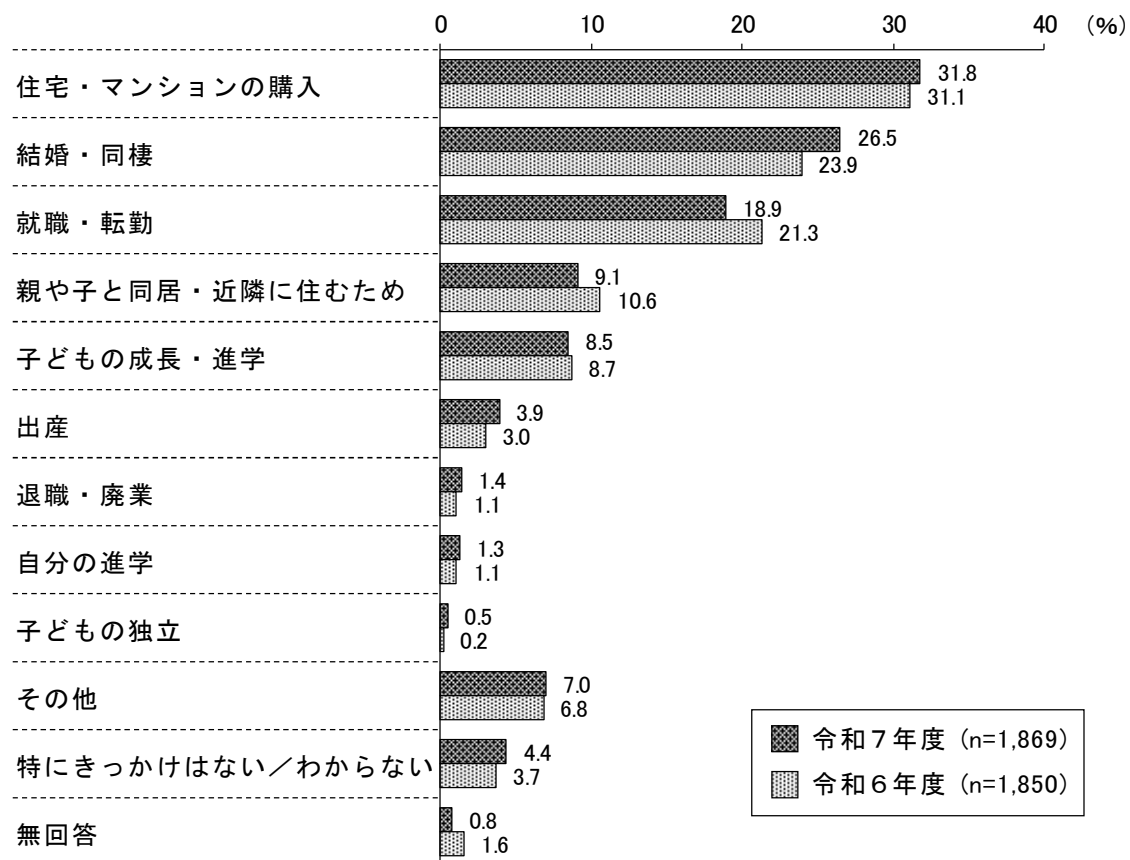
(注) この質問でさいたま市内の10区を答えた人の回答が、居住区(参照:報告書5ページ・(3)居住区)の回答と同じである人を「同じ区内」に区分して再集計した結果を示している。

『さいたま市内』の合計が33.5%で、「埼玉県内の市町村」は24.5%、「埼玉県以外の都道府県」は40.0%であった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-2 以前の地域から引っ越してきたきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

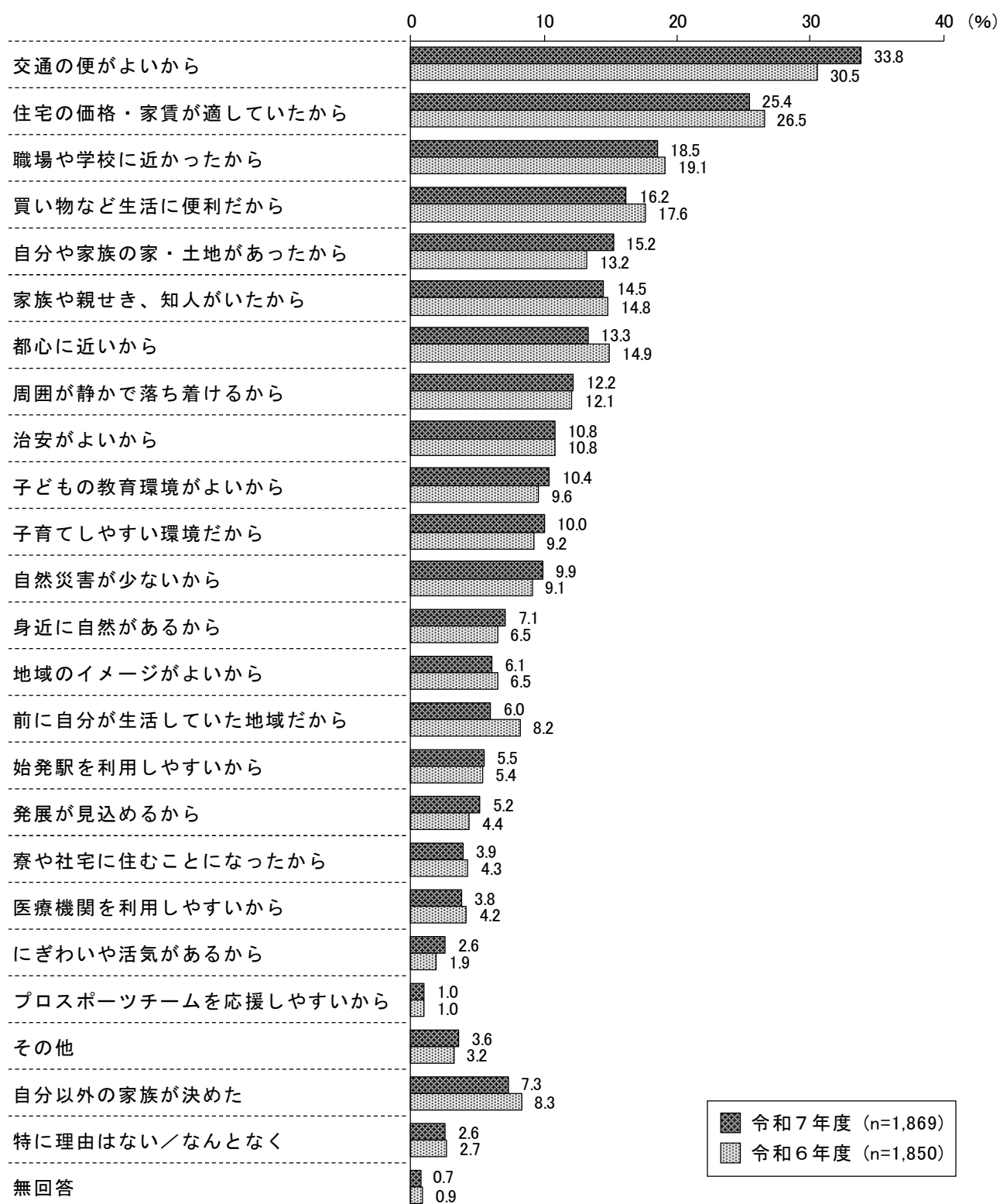


「住宅・マンションの購入」が31.8%で最も高く、「結婚・同棲」(26.5%)、「就職・転勤」(18.9%)が続いた。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

(引っ越してきた人に質問します。)

問 20-3 今の地域を選んだ大きな理由は何ですか。(〇はいくつでも)



「交通の便がよいから」が33.8%で最も高く、「住宅の価格・家賃が適していたから」(25.4%)、「職場や学校に近かったから」(18.5%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「交通の便がよいから」が3.3ポイント増加した。

Ⅲ 在勤者意識調査

1 調査結果の要約

(1) さいたま市のイメージは、「買い物など生活に便利なまち」、「交通の利便性が高いまち」

さいたま市のイメージとして、「買い物など生活に便利なまち」が 61.0%で最も高く、「交通の利便性が高いまち」(57.6%)、「コンサートやイベントが多いまち」(40.7%)が続いた。

(参照：報告書 35 ページ・問 1 (1))

(2) 「岩槻の人形」の知名度が7割近く

さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどの知名度は、「岩槻の人形」が 66.8%で最も高く、「さいたまマラソン」(59.5%)、「浦和のうなぎ」(57.1%)が続いた。

(参照：報告書 37 ページ・問 2)

(3) 市の情報を入手する方法は「家族や知人の話」が2割半ば

市の情報を入手する方法としては、「家族や知人の話」が 24.5%で最も高く、「その他のインターネット」(15.6%)、「全国新聞」(13.8%)、「その他のテレビ」(13.7%)が続いた。

(参照：報告書 38 ページ・問 3)

(4) 住みやすいまちの条件は「治安がよい」、「電車の便がよい」が多い

住みやすいまちの条件としては、「治安がよい」が 77.4%で最も高く、「電車の便がよい」(74.2%)が7割台が続いた。また、さいたま市が住みやすいまちだと思うか聞いたところ、「そう思う」は 44.4%であった。(参照：報告書 39～40 ページ・問 4 (1)、問 4 (2))

(5) さいたま市内に立ち寄る目的は「買い物」と「飲食」

仕事のあと、月1回以上さいたま市内に立ち寄る人は 62.8%であり、立ち寄る目的は「買い物」(72.2%)と「飲食」(63.3%)が特に高かった。(参照：報告書 40～41 ページ・問 5、問 5-1)

(6) 買い物や遊びで、さいたま市に来てみたい人は7割超え

仕事が休みの日に、買い物や遊びで、さいたま市に来てみたいと思う人は 71.4%であった。

(参照：報告書 41 ページ・問 6)

2 回答者の属性

(1) 性別

属 性	回答者数	比率
男 性	357	56.8%
女 性	259	41.2
選べない・答えたくない	8	1.3
無回答	5	0.8
全 体	629	100.0

(2) 年代

属 性	回答者数	比率
18～19歳	1	0.2%
20代	60	9.5
30代	109	17.3
40代	156	24.8
50代	185	29.4
60代	102	16.2
70歳以上	11	1.7
無回答	5	0.8
全 体	629	100.0

(3) 居住地域

属 性	回答者数	比率
近隣市北部	115	18.3%
近隣市南部	69	11.0
埼玉県西部及び秩父地域	87	13.8
埼玉県東部地域	179	28.5
埼玉県北部地域	21	3.3
東京都23区	61	9.7
その他の東京都	21	3.3
千葉県	29	4.6
神奈川県	16	2.5
その他	24	3.8
無回答	7	1.1
全 体	629	100.0

(4) 在勤区

属 性	回答者数	比率
西 区	21	3.3%
北 区	64	10.2
大宮区	93	14.8
見沼区	38	6.0
中央区	82	13.0
桜 区	9	1.4
浦和区	94	14.9
南 区	64	10.2
緑 区	53	8.4
岩槻区	104	16.5
無回答	7	1.1
全 体	629	100.0

(5) さいたま市内での在勤年数 (合併前も含む)

属 性	回答者数	比率
1年未満	62	9.9%
1～3年未満	85	13.5
3～5年未満	64	10.2
5～10年未満	107	17.0
10～20年未満	184	29.3
20年以上	122	19.4
無回答	5	0.8
全 体	629	100.0

(6) 通勤時間

属 性	回答者数	比率
30分未満	104	16.5%
30分～1時間未満	248	39.4
1時間～1時間半未満	181	28.8
1時間半～2時間未満	80	12.7
2時間以上	11	1.7
無回答	5	0.8
全 体	629	100.0

(7) 通勤手段

属 性	回答者数	比率
電車	390	62.0%
路線バス	10	1.6
送迎バス	1	0.2
自家用車	182	28.9
バイク	3	0.5
自転車	27	4.3
徒歩	8	1.3
その他	3	0.5
無回答	5	0.8
全 体	629	100.0

(8) 家族構成

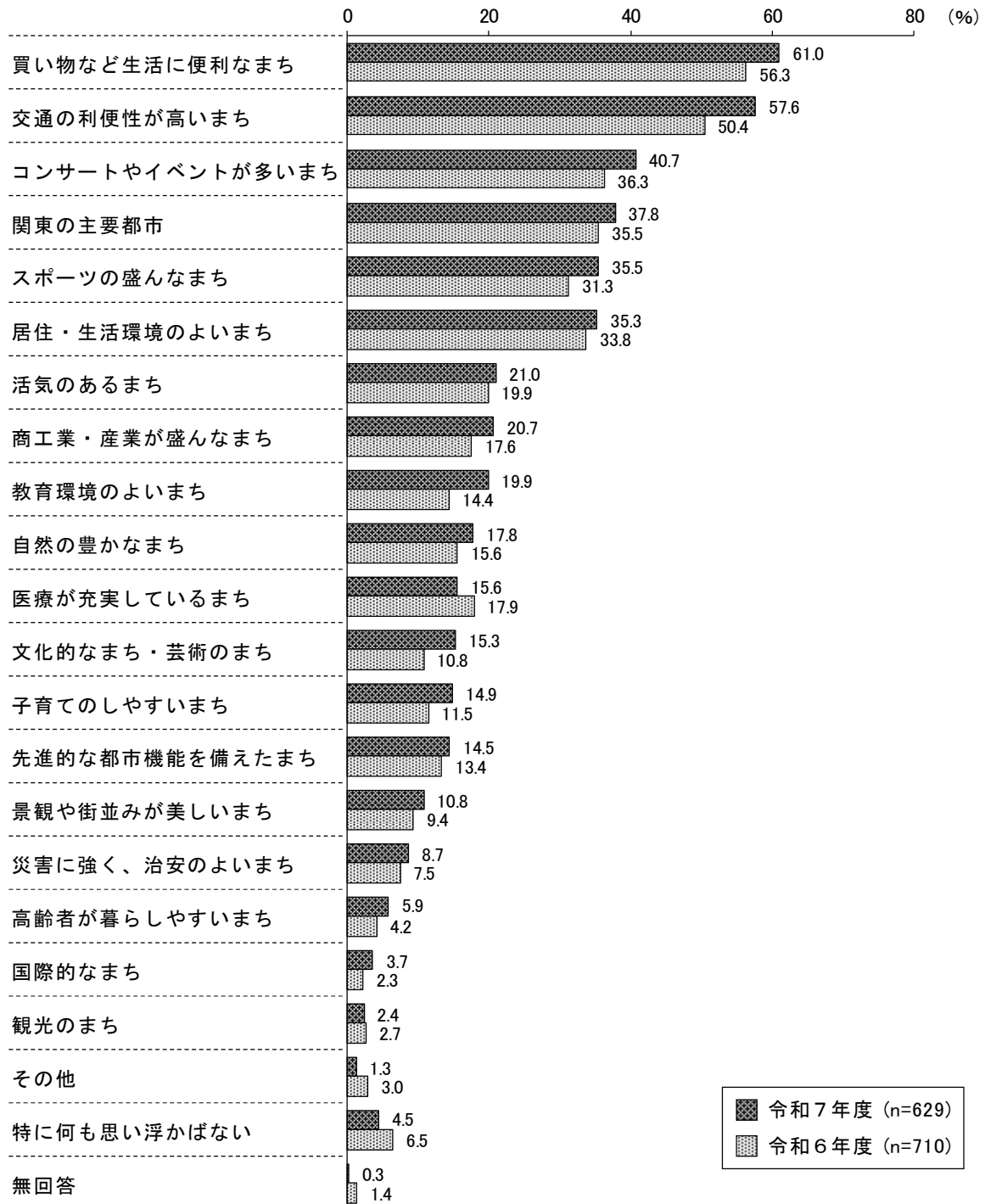
属 性	回答者数	比率
一人暮らし	93	14.8%
夫婦だけ	138	21.9
親子（2世代）	351	55.8
親と子と孫（3世代）	33	5.2
その他	9	1.4
無回答	5	0.8
全 体	629	100.0

3 調査の結果

(1) さいたま市のイメージ

問1 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1) あなたは、「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

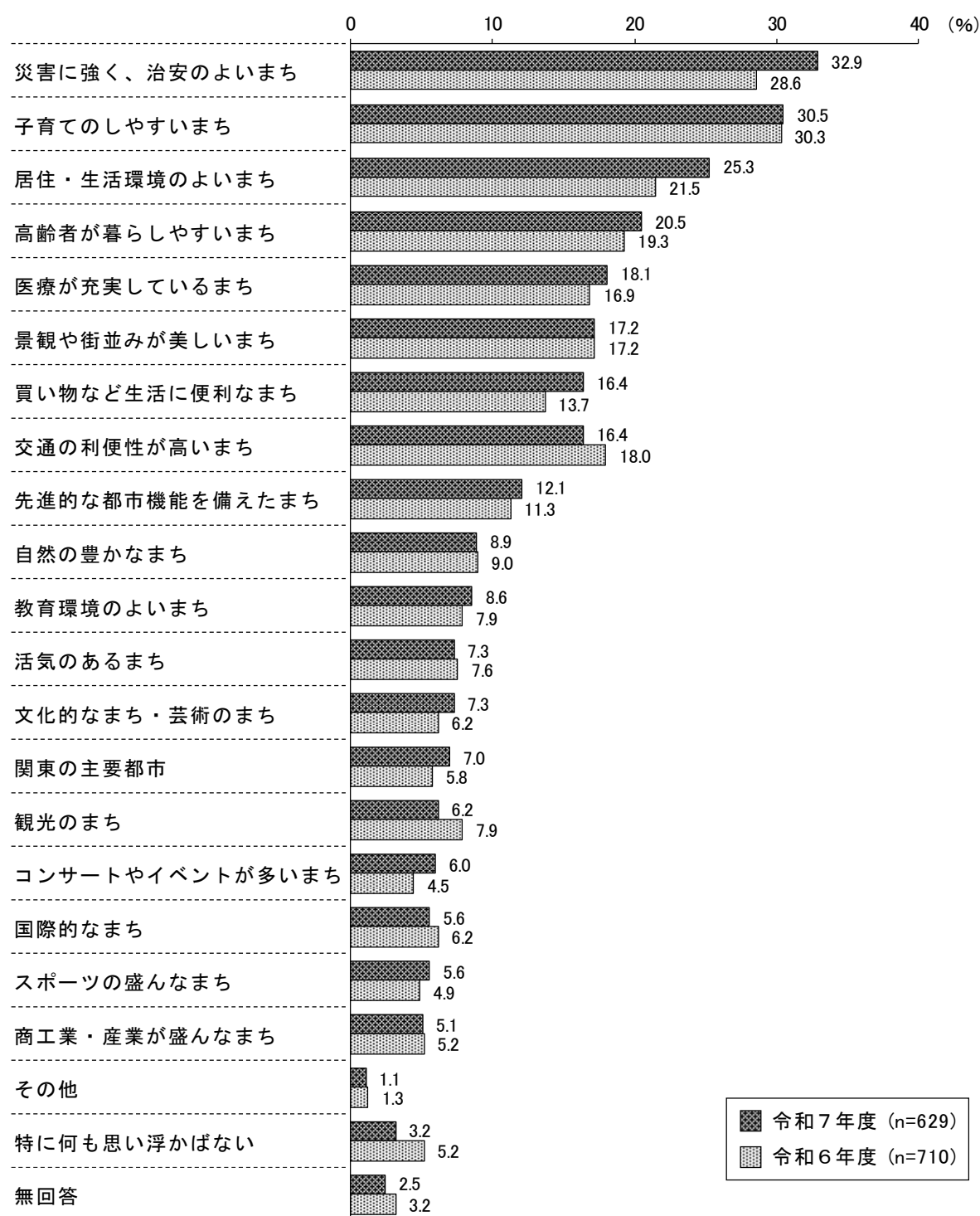


「買い物など生活に便利なまち」が61.0%で最も高く、「交通の利便性が高いまち」(57.6%)、「コンサートやイベントが多いまち」(40.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「交通の利便性が高いまち」が7.2ポイント、「教育環境のよいまち」(19.9%)が5.5ポイント、「買い物など生活に便利なまち」が4.7ポイント増加した。

問1 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

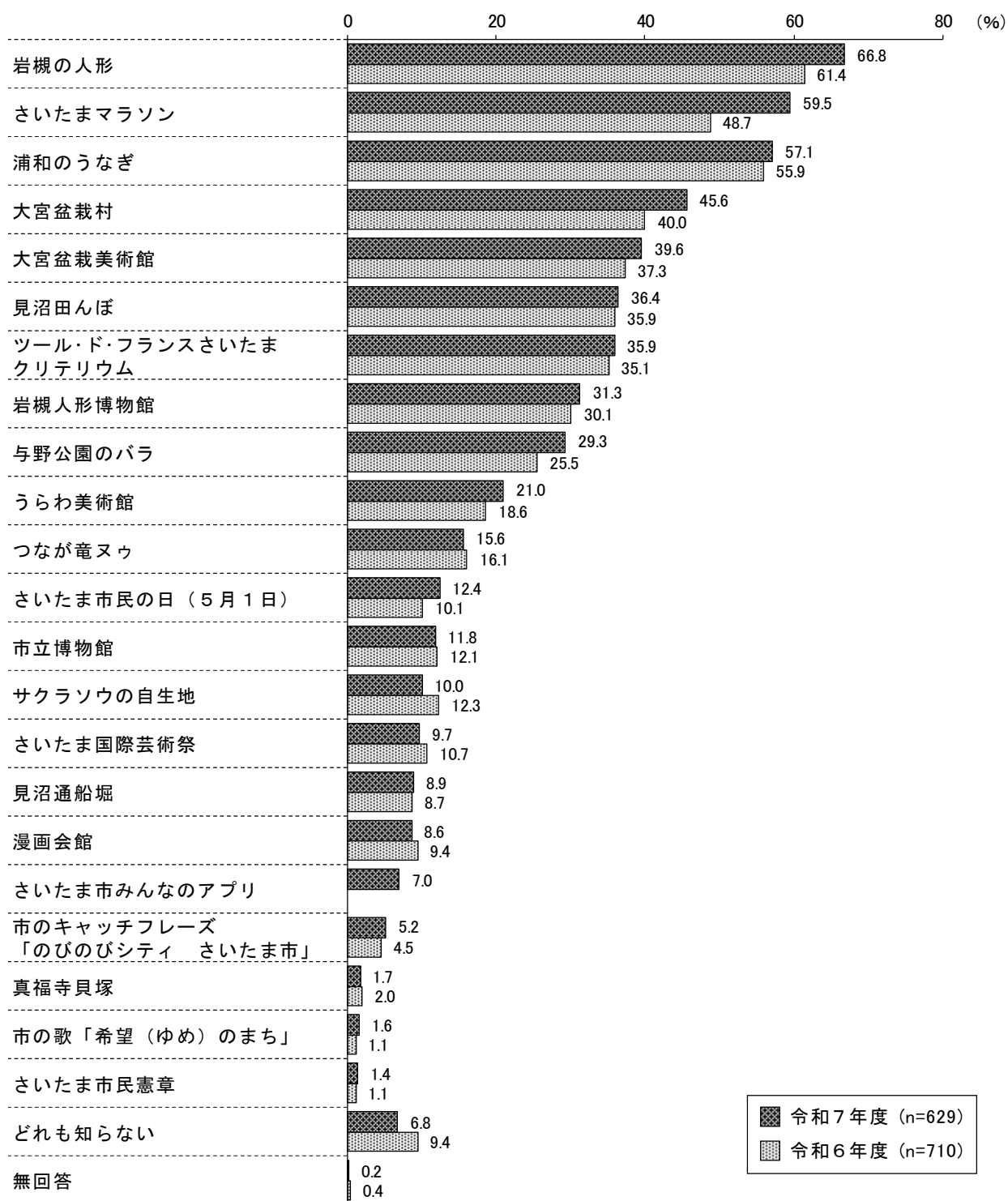
(2) あなたは、「さいたま市」が今後いっそう魅力的な都市になるためには、将来どのような方向へ発展するとよいと思いますか。(〇は3つまで)



「災害に強く、治安のよいまち」が32.9%で最も高く、「子育てのしやすいまち」(30.5%)、「居住・生活環境のよいまち」(25.3%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「災害に強く、治安のよいまち」が4.3ポイント、「居住・生活環境のよいまち」が3.8ポイント増加した。

問2 さいたま市の施設、名所、文化財、伝統産業、イベントなどについて、あなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



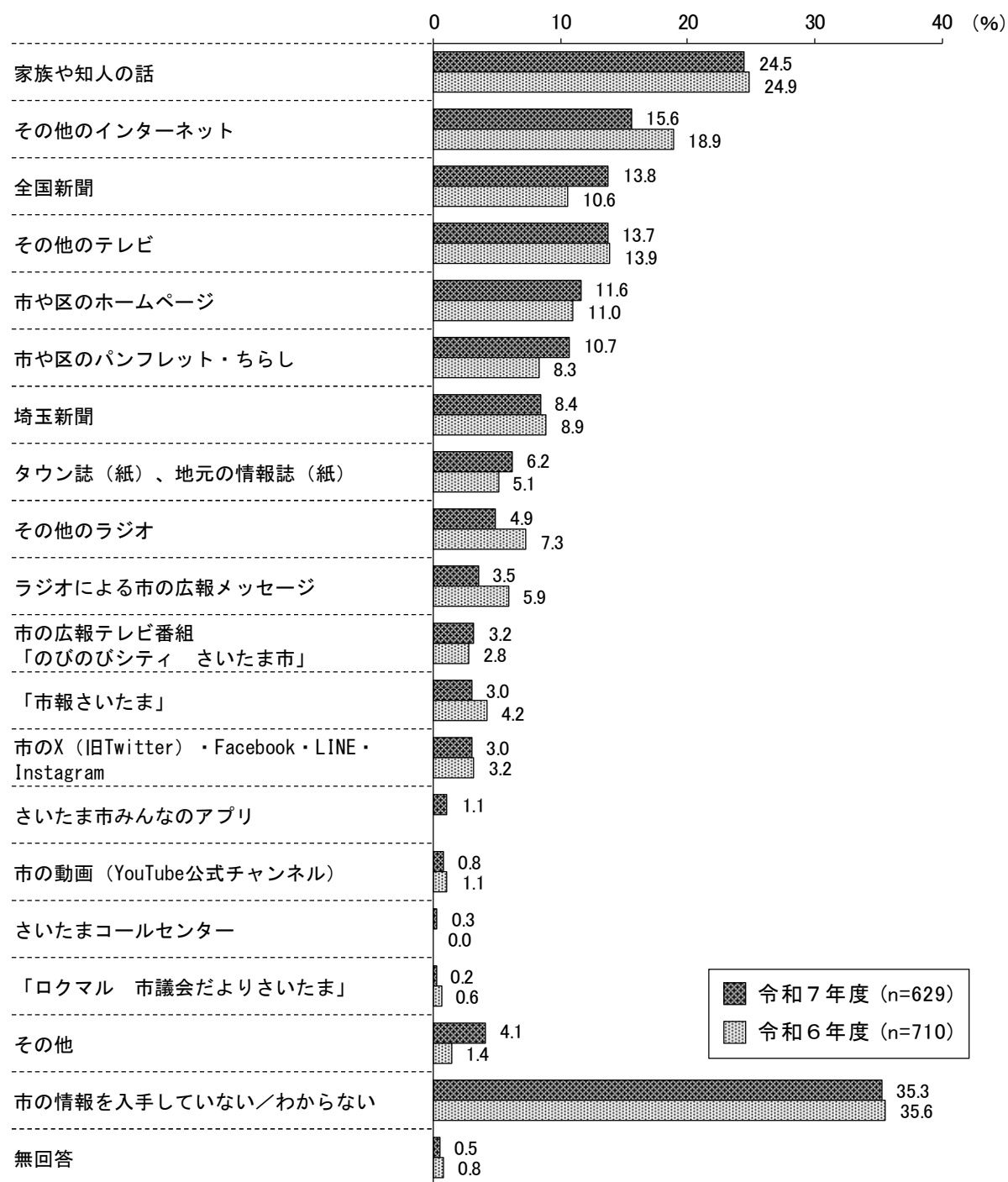
(注記)「さいたま市みんなのアプリ」は、令和7年度調査から選択肢に加えた。

「岩槻の人形」が66.8%で最も高く、「さいたまマラソン」(59.5%)、「浦和のうなぎ」(57.1%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「さいたまマラソン」が10.8ポイント、「大宮盆栽村」(45.6%)が5.6ポイント、「岩槻の人形」が5.4ポイント増加した。

問3 あなたは、さいたま市が発信する情報をどのような方法で入手していますか。

(〇はいくつでも)



(注記)「さいたま市みんなのアプリ」は、令和7年度調査から選択肢に加えた。

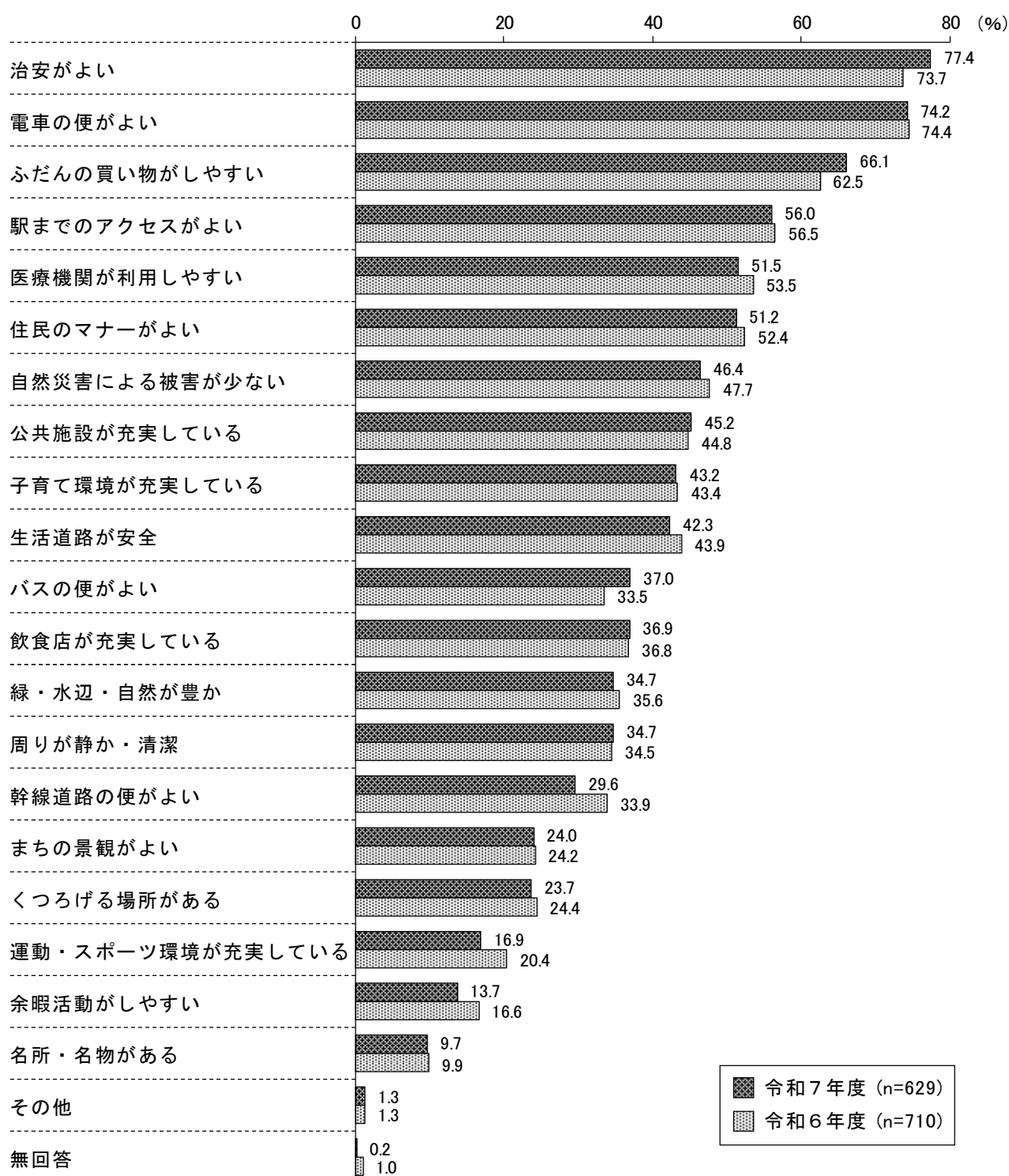
「家族や知人の話」が24.5%で最も高く、「その他のインターネット」(15.6%)、「全国新聞」(13.8%)、「その他のテレビ」(13.7%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「全国新聞」が3.2ポイント増加した一方、「その他のインターネット」が3.3ポイント減少した。

問4 住みやすいまちの条件と、それに対するさいたま市の評価について質問します。

(1) あなたにとって、「住みやすいまち」とは、どのようなまちですか。

以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

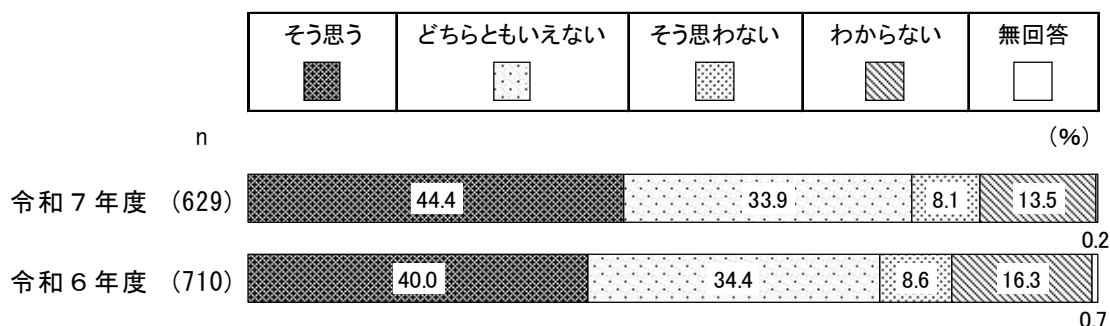


「治安がよい」が 77.4%で最も高く、「電車の便がよい」(74.2%)、「ふだんの買い物がしやすい」(66.1%)が続いた。

令和6年度の調査結果と比較すると、「幹線道路の便がよい」(29.6%)が 4.3 ポイント減少した。

問4 住みやすいまちの条件と、それに対するさいたま市の評価について質問します。

(2) あなたは、さいたま市は「住みやすいまち」だと思いますか。(○は1つ)

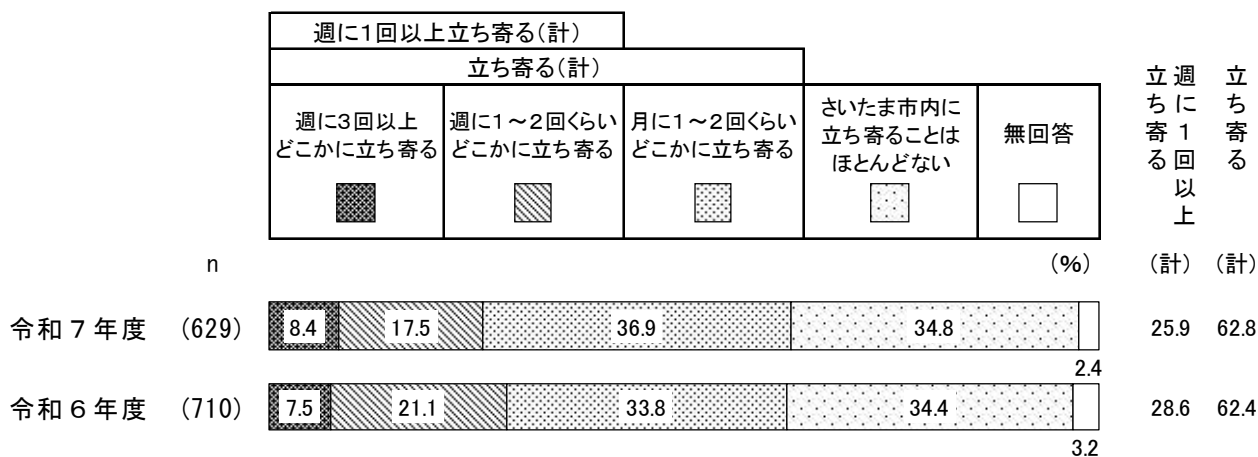


「そう思う」が44.4%で、「そう思わない」(8.1%)を上回った。

令和6年度の調査結果と比較すると、「そう思う」が4.4ポイント増加した。

(2) 市内での活動

問5 あなたは、お仕事が終わったあと、食事や買い物などでさいたま市内のどこかに立ち寄ることがありますか。(○は1つ)

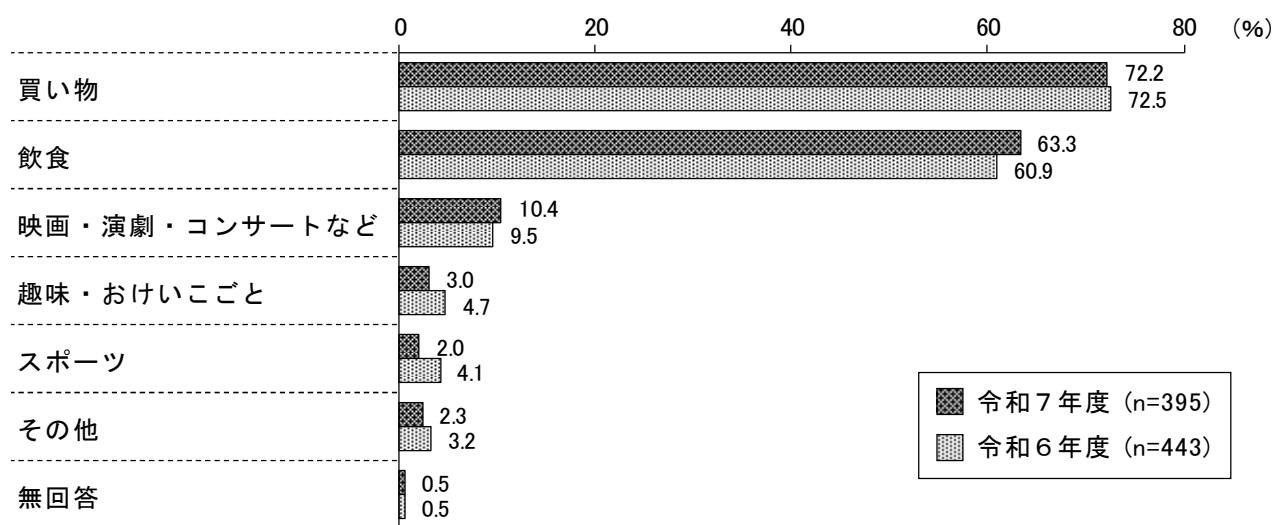


「週に3回以上どこかに立ち寄る」(8.4%)と「週に1~2回くらいどこかに立ち寄る」(17.5%)を合わせた『週に1回以上立ち寄る(計)』は、25.9%であった。さらに「月に1~2回くらいどこかに立ち寄る」(36.9%)を合わせた『立ち寄る(計)』は、62.8%であった。

令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

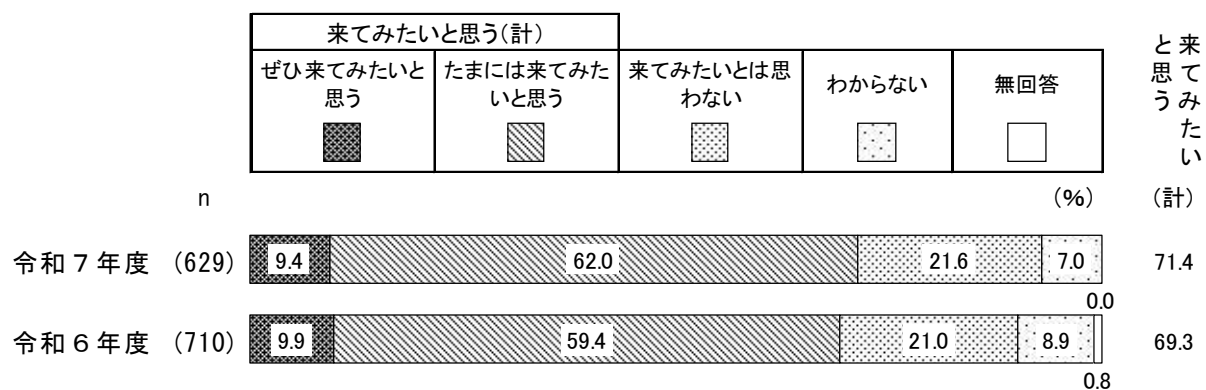
(問5で「週に3回以上どこかに立ち寄る」「週に1～2回くらいどこかに立ち寄る」「月に1～2回くらいどこかに立ち寄る」と答えた方に)

問5-1 どのような目的で市内に立ち寄りますか。(〇はいくつでも)



「買い物」(72.2%)と「飲食」(63.3%)が高かった。
令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

問6 あなたは、仕事が休みの日に、買い物や遊びで、さいたま市に来てみたいと思いますか。
(〇は1つ)



「ぜひ来てみたいと思う」(9.4%)と「たまには来てみたいと思う」(62.0%)を合わせた『来てみたいと思う(計)』は、71.4%であった。
令和6年度の調査結果と、おおむね同じであった。

〔このさいたま市民意識調査業務の委託に要する経費は、257 万円です。〕